

一般社団法人  
建設コンサルタンツ協会 東北支部

# JCCA TOHOKU



vol. **70**  
支部だより 2025.4

目次

Vol.70

・ 巻頭言 これからの建設コンサルタント協会東北支部が目指すこと ..... (一社)建設コンサルタント協会東北支部 副支部長 松尾新二郎	1
・ 特集1 異常気象 まえがき 異常気象.....	3
選択取水設備の柔軟な運用について ..... 東北地方整備局 摺上川ダム管理所 所長 三浦 猛	4
熱中症の予防について..... 宮城県保健福祉部健康推進課	7
令和6年7月豪雨と気候変動の影響について ..... (株)双葉建設コンサルタント 代表取締役 海藤 剛	9
・ 特集2 東北インフラツーリズム (ダム篇) まえがき 東北インフラツーリズム (ダム篇).....	11
【青森県】津軽ダムにおけるインフラツーリズムの取り組みについて ..... 東北地方整備局 岩木川ダム統合事務所 調査課長 五十嵐 悟	12
【岩手県】北上川五大ダムにおけるインフラツーリズムの取り組み ..... 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所 所長 小田桐淳司	14
【秋田県】インフラと自然が織りなす魅力の郷～成瀬ダムから広がる東成瀬村の新しい魅力～ ..... 東邦技術(株) 石塚 三雄	16
【宮城県】鳴子ダムにおけるインフラツーリズム ..... 東北地方整備局 鳴子ダム管理所 専門官 木村 康文	18
【山形県】ダムインフラツーリズムの推進による地域活性化への取り組み ..... 山形県村山総合支庁建設部 山形統合ダム 管理課 渋江 勇樹	20
【福島県】ふくしまインフラツーリズムの取組について ..... 福島県土木部 まちづくり推進課 副主査 北川 幸祐	22
・ 名勝地・行事 私のヨリドコ..... 国際航業(株) 東北技術部 及川 らん	24
・ 私の趣味 アイスホッケーと私「フェイス・オフ (試合開始) から試合終了まで」 ..... 大日本ダイヤモンドコンサルタント(株) 青森事務所 塩谷 明	25
・ 女性技術者の声 とりとめのないこと..... (株)ダイエツ 村上愛澄美	26
私の「おしごと」..... (株)ドーコン 岸本 康江	27
・ 若手技術者の声 これまでの振り返りと今後の目標..... 三井共同建設コンサルタント(株) 山川 喜輝	29
仙台での新しい日常とキャリア..... (株)長大 鶴岡 央	30
・ 講演会等報告 令和6年度講演会報告..... 広報委員 大場 秀行	31
・ 現場見学会報告 令和6年度 構造専門委員会 現場見学会に参加して ..... セントラルコンサルタント(株) 空谷 謙吾、内藤 和彦	35
令和6年度 構造専門委員会 現場見学会に参加して ..... (株)復建技術コンサルタント 武田 洸	36
令和6年度 河川・環境専門委員会 現場研修会に参加して ..... 八千代エンジニアリング(株) 北村 諒馬	37
令和6年度 河川・環境専門委員会 現場研修会に参加して ..... セントラルコンサルタント(株) 遠藤 達也	38
令和6年度 道路・地盤・インフラメンテナンス 現場研修会に参加して ..... (株)片平新日本技研 山口 拓海	39
・ 意見交換会 令和6年度 建コン東北支部意見交換会..... 対外活動副委員長 湯澤洋一郎	41
・ 我ら、建コン若手の会！ 若手の会で得た学びと今後の目標 ..... 総務部会 若手の会 (株)東コンサルタント) 柴田 愛美	44
・ 支部だより.....	45
・ 会員の動向.....	49
・ 東北支部 会員名簿.....	50
・ 編集後記..... 広報委員 海老名俊之	52



## これからの建設コンサルタンツ協会東北支部が目指すこと

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部 副支部長 松尾 新二郎

2024年10月に副支部長を拝命致しました日本工営株式会社の松尾と申します。何卒宜しくお願ひ申し上げます。副支部長就任に伴い、昨年末に本号の巻頭言の執筆依頼をいただきました。ただ、正直に言って巻頭言で何を書いていいものかわからず、思案に暮れておりました。

私が東北に赴任したのは2015年4月のことです。その時から、建設コンサルタンツ協会東北支部での活動に携わって参りました。最初は、技術部会の地盤専門委員会で委員を3年間務め、次に同じく技術部会の技術交流専門委員会で委員を3年間務めました。その後2021年7月から支部理事となり、2023年4月から2025年3月まで技術部会長を務めて参りました。

ということで、建コン東北支部の活動に係わり始めて、かれこれ10年になりました。この10年間の支部活動では様々な経験や貴重な体験をさせていただきました。ここでは、その経験や体験を通じて感じたこと、さらにはそれを踏まえてこれから当支部が目指すべきことなどについて私見を述べてみたいと思います。

私は日本工営株式会社に1991年4月に入社しました。2025年3月でちょうど34年になります。

この34年間では、主に技術屋として地質調査・解析や地すべり調査・対策工設計、砂防調査・砂防設計などの業務に従事してきました。このような業務に従事してきたことに加えて、(公社)砂防学会や(公社)日本地すべり学会などの学会活動にも従事していたことから、これまでに全国各地で発生した様々な土砂災害現場の調査に係わることが出来ました。

東北に赴任してからも土砂災害調査に係わることが多く、岩手県岩泉町を中心とした平成28年台風第10号土砂災害、令和元年東日本台風災害、令和4年8月山形県飯豊町土砂災害、直近では令和6年7月山形・秋田豪雨災害などの災害現場に赴き、現地調査や応急・復旧対策の検討に携わりました。被災地箇所では、やはり対策施設が設けられていない場所が多いですが、中には対策施設が設けられているものの、その機能を

損なうほど異常な外力が働き被災したケースもあります。いわゆる、想定外とか既往最大という言葉が度々使われることが、近年非常に多くなりました。このため、構造物を設置するハード対策と併せて、やはり警戒・避難などのソフト対策をセットで整備し、人的被害の軽減、物的被害の抑制を目指す防災・減災の取組みが重要と感じます。

このように東北地方では、ここ数年、毎年どこかの地域で豪雨に伴う土砂・洪水被害が発生しており、地球温暖化に伴う極端な気象・気候変動によって、自然災害が頻発化・激甚化していることをはっきりと認識できます。これらの自然災害に対しては、まず被災地の復旧・復興を迅速に進めることが大切ですが、これに対して、私達、建設コンサルタンツ協会東北支部は様々なかたちで行政からの支援要請に対応していかなくてはなりません。このことは、東北地域に限った事ではなく、昨年1月1日に発生しました能登半島地震災害においては、東北地方整備局のテックフォースに帯同・サポートするドローン調査班の支援要請があり、東北支部の会員数社が正月明けから厳しい寒さの能登半島で現地作業に対応いただきました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、全国から多くの人的・物的支援をいただき、そのおかげもあって未曾有の災害を乗り切ってきた東北です。その



令和6年7月豪雨での災害調査状況(山形県)

経験を次に活かすためにも、東北地域内・外で発生した自然災害に対して、行政やその他協会などの関係機関とより連携・協力しながら、スピード感をもって災害支援活動を展開し、さらにはその活動を一般の方々に広くPRしていくことが、これからの東北支部の災害支援活動にとってより重要ではないかと考えます。

さて、話は変わりますが、建設業界に限らず、どの業界・分野でも「担い手の確保・育成」は今後の重要な課題の一つです。特に東北地域は、少子・高齢化のスピードがとても早いと言われていています。総務省発表の人口動態調査（2024年1月1日）では、日本人住民の減少率が全国で最も高い県は秋田県、それに続き青森県、岩手県となっており、東北地域が全国の上位を占めている結果となっています。さらには高齢化率（総人口に占める65歳以上の割合）についても、令和5年のデータでは全国で秋田県が39.0%と最も高く、東北の他県も宮城県を除けば33%以上の高い値を示しています。高齢化率の伸びも非常に高いと言われており、東北は少子・高齢化が全国で最も進んでいる地域となっています。このことから、東北地域は他の地域に比べて「担い手の確保・育成」はより深刻な問題と捉えられます。このため、当支部ではこの問題に対して、下記の4点をより積極的に取り組むことが重要と思っています。

- ①「新4K（給与・休暇・希望・かっこいい）」に代表される建設コンサルタント業界の魅力向上
  - ②若者を中心とした幅広い世代に対する建設コンサルタント業界のアピール（重要性や社会貢献性）
  - ③持続可能な安定した業界であり続けること
  - ④DXやICTを駆使したより高い生産性の向上
- ①や②に関連した東北支部の最近の取り組みでは、総務部会若手の会を中心に、「SNSを活用した情報発信」、「QRコード付き業界PRリーフレットの作成」、「TV

番組とタイアップした業界紹介番組の放映」、「未来への提言」PR動画の作成やYouTubeサイトへの掲載」など若手目線での広報活動を精力的に行ってもらっています。令和7年度は、技術部会にて若手技術者のプレゼン能力の向上と若手技術同士の技術交流促進を目的として「(仮)若手技術者業務・研究発表会」を新規に企画することとしています。若手の会（若手メンバー）と技術部会（ベテランメンバー）が協力することでより良い発表会になると期待しております。



若手の会作成「業界PRリーフレット」

最後になりますが、東北地域には前述したように自然災害の頻発化・激甚化や少子・高齢化等への対応など、これからの将来にわたり様々な課題があります。その課題に立ち向かうために、若手・中堅・ベテラン・シニアという各世代を繋ぐ絆、地域コンサル同士・広域コンサル同士・地域コンサルと広域コンサル、それぞれ立場や事情の異なる会社同士を繋ぐ絆、建設コンサルタンツ協会東北支部はこの二つの「絆」をこれからもより強く・深くしていくことが大切だと感じます。東北のインフラの守り手として、これからも当支部が力強く発展していくことを祈念しております。

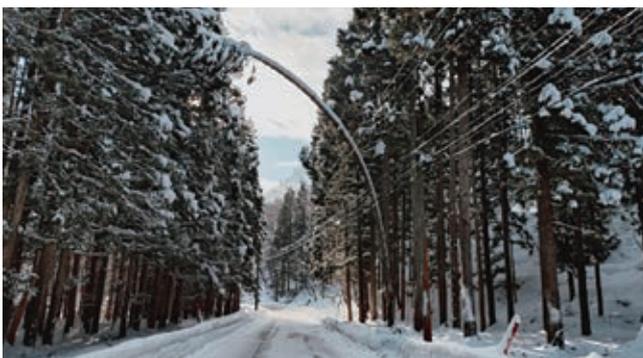
## まえがき

## 異常気象

近年、地球温暖化の影響により、異常気象が世界各地で頻発しています。猛暑、豪雨、洪水、大雪、干ばつ、台風など、これまでに経験したことのないような気象現象が私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。これらの異常気象は、単なる自然現象ではなく、人類が直面する重大な課題です。



- 大雨と洪水：2023年の梅雨期には、東・西日本の太平洋側で線状降水帯が相次いで発生し、167地点で24時間降水量が6月としての記録を更新する大雨となりました。
- 猛暑：2022年の夏には、全国914地点のうち24地点で観測史上最も高い高温を記録し、東京でも9日間連続猛暑日を記録しました。
- 豪雪：近年、特に北日本や日本海側では、記録的な豪雪が観測されています。例えば、2021年の冬には、北海道や東北地方で平年を大きく上回る降雪量が記録されました。



- 少雪：一方で、暖冬の影響により、降雪量が平年よりも少ない年もあります。2020年の冬は、全国的に記録的な暖冬となり、降雪量が大幅に減少しました。
- 平成の大渇水：1994年、西日本で発生した干ばつは「平成の大渇水」と呼ばれています。この年は暖冬による少雪、早い梅雨明けによる少雨、猛暑が重なり、西日本全域で水不足が深刻化しました。福岡市では夜間断水が295日間続き、四国の早明浦ダムは完全に干上がり、貯水率が0%になるなどの被害が発生しました。
- 北海道の干ばつ：2021年夏、北海道紋別市で干ばつが発生し、農作物に災害級の被害が出ました。降水量は平年の1割未満、平均気温も平年より2～3度高く、100年に1度と言われるほどの少雨と高温が続きました。タマネギの変形や牧草などの飼料作物の収穫量が大幅に減少し、牛の日射病も増加しました。



これらの異常気象の原因としては、地球温暖化が大きく関係しているとされています。温暖化が進むことで、極端な気象現象の頻度や強度が増加する傾向にあります。

本特集では、様々な分野で確認されている異常気象の現状を各方面からご寄稿頂きました。本特集より読者の皆様は異常気象に対する理解を深め、異常気象における対策を考え、更には地球温暖化防止に向けた行動を起こすきっかけになれば幸いです。

## 選択取水設備の柔軟な運用について

東北地方整備局 摺上川ダム管理所 所長 三 浦 猛

### 1. はじめに

一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部の会員各位には、摺上川ダムの取り組みに際し、多大なご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

近年、気候変動の影響などによりダムに求められる役割も増える中、自然調節ダムとしてできることは限られますが、地域に貢献できることには積極的に取り組んでいく所存ですので、引き続きお力添えをいただこう、よろしく願いいたします。

### 2. 摺上川ダムについて

摺上川ダムは、阿武隈川水系摺上川の上流、福島市



摺上川ダム全景

飯坂町茂庭地区に建設され、平成18年度から管理を開始した多目的ダムです。

摺上川ダムは、集水面積160km<sup>2</sup>、総貯水容量1億5,300万m<sup>3</sup>を有する、ダム高105mの中央コア型ロックフィルダムであり、洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水補給、水道用水供給、工業用水確保、加えて水力発電と多くの役割を担っています。

摺上川ダムは、福島市中心部から車で約30分という利便性もあり、年間約3万人の方がダムを訪れてくれますし、小学校の総合学習のフィールドとして年間約30校に活用していただいています。

また、河川協力団体でもあるNPO法人いざかサ



カヤック（カヌー）ツアーの様子

貯水池	集水面積	160.0km <sup>2</sup>
	湛水面積	4.6km <sup>2</sup>
	設計最高水位	EL. 308.5m
	洪水時最高水位	EL. 306.5m
	平常時最高貯水位	EL. 296.5m
	洪水貯留準備水位(6/11~10/10)	EL. 295.0m
	最低水位	EL. 245.0m
ダム	総貯水容量	153,000,000m <sup>3</sup>
	有効貯水容量	148,000,000m <sup>3</sup>
	堆砂容量	5,000,000m <sup>3</sup>
	型式	中央コア型ロックフィルダム
	堤頂標高	EL. 311.5m
	堤高	105.0m
	堤頂長	(洪水吐含む) 718.6m
	ダム体積	フィル 8,300,000m <sup>3</sup>
	設計洪水流量	2,100m <sup>3</sup> /s
	放水設備	非常用放流設備
常用放流設備		497m <sup>2</sup> 3.0m×3.0m×2門
その他放流設備		利水及び貯水位低下用放流設備
ダムサイト地質		火山礫凝灰岩、礫岩
総事業費	約1,953億円	

摺上川ダム諸元

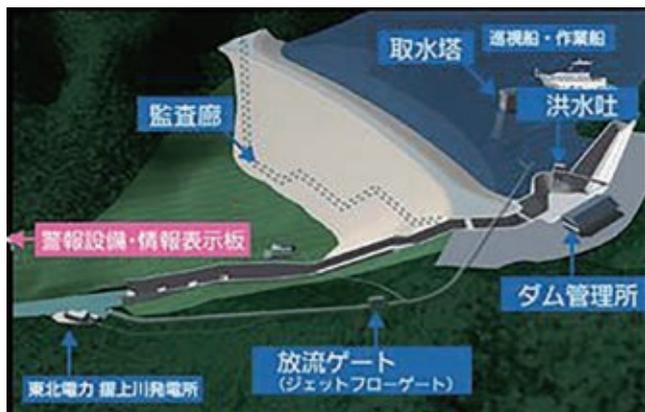


貯水池と選択取水設備イメージ

ポーターズクラブの主催で4月～11月の期間、ダム湖「茂庭っ湖」を活用したカヤック（カヌー）ツアーが開催されています。

### 3. 取水設備について

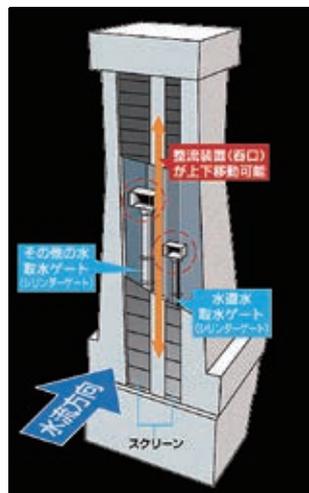
取水設備は、ダム堤体左岸直上流に配置し、取水塔は側壁付独立塔形式、取水ゲートは円形多段シリンダゲートで、かんがい用水などの取水に用いるダム取水



取水設備概要図



取水塔全景



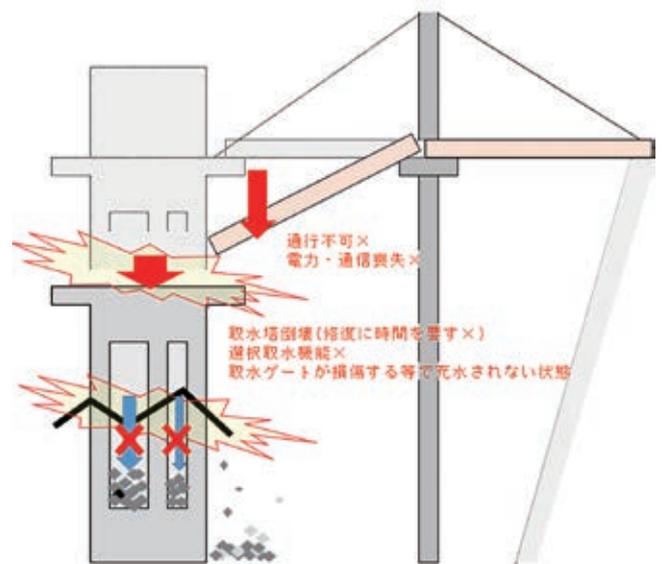
取水塔全景と取水塔構造図

ゲートと専ら水道用水を取水する上水道取水ゲートの2系統が設置され、貯水池のどの水深からでも取水可能な選択取水設備となっています。

これまでの運用は、ダム取水は水面から3.0m付近を追従する表面取水、上水道取水ゲートは年間を通じて水温の低い水深からの固定取水となっています。

### 4. 取水設備の懸念について

取水塔建設時の設計基準が古く、また取水塔の管理橋が約180mと長大で、かつ電力線、通信線が添架されていることから、特に大規模地震時の被災により電源を喪失し取水機能を失う可能性が懸念されるため、想定される被災後の応急対策について検討を行いました。



取水塔被災想定例

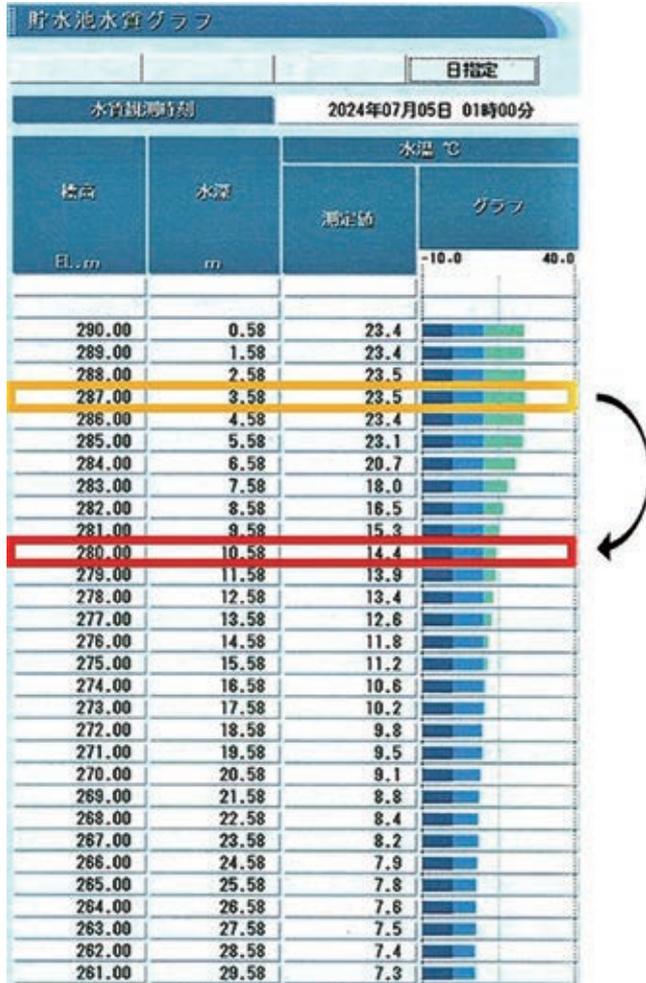
検討内容の詳細については省略させていただきますが、利水補給を可能とする実現可能な対策として、①ポンプ取水案、②予め取水深を現行より下げて運用する案、③制水ゲートの戸溝蓋を開けて補給する案で検討した結果、電源喪失への対応やコスト面で有利な②予め取水深を現行より下げて運用する案が最適と判断されました。

### 5. 冷水放流の影響

対策②の具体的内容は、これまで3.0m付近の表面取水だった取水深を10.0m付近まで下げて運用することにより、被災後も年間の利水補給が可能となるというものです。

しかしながら、表面取水よりも水温が10℃近く低くなることから冷水放流となり、特に農業、漁業への

影響が心配されましたが、利水者調整会議で対策の提案をしたところ、予想外にも歓迎されました。



取水深変更 (令和6年7月時点)

農業関係者に聞くと、農業の分野でも高温障害等の気候変動の影響による農作物の品質低下への対応が課題になっているとのことで、今回の提案は農業分野のニーズとマッチングしたと思われます。

下記に、農業関係者の声を列記します。

- ・近年、高温障害もあるので少しでも冷たい水の方が良い。
- ・田植えの時期も近年暑い。温かい水だと活着が良くない。
- ・今年も暑いので、早く実施して欲しい。

また、漁業関係者も、高すぎる水温よりは低い水温の方が良いとのことでした。

## 6. 今後の対応

ダムからの放流において、水温の視点も重要と確認できたことから、農業関係者の要請にできるだけ応じよう、連絡・調整を密にする体制を構築したところ です。

一方、ダム直下の親水空間において河川利用者が水遊びするには、水が冷たくて厳しい環境となるため、どちらのニーズにも対応できる柔軟な運用ができないか今後検討していきたいと考えているところです。

## 7. おわりに

これまでの「ダム取水は表面取水」という常識からすると、今回の対応はイレギュラーなものかもしれませんが、気候変動の影響は様々な分野で課題になっていることをあらためて認識した今、これまでの常識や慣例に囚われず、運用の工夫等が地域に役立つのであれば積極的に取り組もうと考えております。

今後、皆様のお知恵を借りる場面があると思いますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 熱中症の予防について

### 宮城県保健福祉部健康推進課

近年、熱中症による健康被害が増加しており、梅雨明け前後及び急な気温の変化のあった日に熱中症による救急搬送人数が増加する傾向にあります。

一人一人が正しい知識を持ち、熱中症を予防しましょう。

#### 【熱中症とは】

- 熱中症は、高温多湿な環境に長くいることで体温調節がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態のことを言います。
- 誰でもかかる危険性があり、屋外だけでなく、室内や夜間でも多く発生しています。

#### 【熱中症予防のポイント】

- 天気予報や熱中症警戒アラート等の情報を活用していただき、急激な気温や湿度の変化に注意しましょう。
- 二日酔いや寝不足、疲れているときなどは、かかりやすくなりますので、十分な休養を取りましょう。
- のどの渇きを感じていなくても、こまめに水分・塩分などを補給しましょう。
- 発生場所で最も多いのは居室で、約4割に上っていることから、室内でも温度や湿度を測り、我慢せずにエアコンを使用しましょう。
- 遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用して暑さを避けましょう。
- 外出時には日傘や帽子を着用し、日陰を利用する等こまめに休憩を取りましょう。

#### 【熱中症が疑われる人を見かけたら】

- エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所に移動させましょう。
- 衣服をゆるめ、体を冷やしましょう。(特に首の周り、脇の下、足の付け根など)
- 水分、塩分、経口補水液などを補給しましょう。
- 自力で水が飲めない、脱力感や倦怠感が強く、動けない、意識がない場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。

#### 【関連ホームページ】

- 職場における熱中症予防ポータルサイト  
「学ぼう！備えよう！職場の仲間を守ろう！  
職場における熱中症予防情報」  
<https://neccyusho.mhlw.go.jp/>
- 宮城県保健福祉部健康推進課  
「熱中症を予防しましょう」  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kensui/nettyusyou.html>

(参考) 宮城県内における熱中症の救急搬送人数

(人)

	～5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
R6	60	136	539	513	119	5	1,372
R5	55	118	874	963	153	0	2,163
R4	35	259	475	363	56	2	1,190

#### 【熱中症警戒情報等について】

- 「熱中症警戒情報（警戒アラート）」は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に環境省が発表するもので、適切な熱中症予防行動を効果的に促すための情報です。
- 令和6年からは、都道府県内の全ての暑さ指数情報提供地点において暑さ指数(WBGT)が35に達することが予測され、広域的に過去に例のない危険な暑さとなり、重大な健康被害が生じるおそれがある場合に発表される「熱中症特別警戒情報（特別警戒アラート）」が新設されました。  
特別警戒アラート発表時には、外出をなるべく控え、運動は中止するなどの対策を徹底することが必要です。
- 警戒アラートや特別警戒アラートの発表状況は、熱中症予防情報サイト (<https://www.wbgt.env.go.jp/>) で公表されるほか、環境省の公式LINEアカウントやメール配信サービスでも発信されています。

### 【クーリングシェルター等について】

- 特別警戒アラートが発表された区域では、暑熱からの避難場所として市町村が指定する「指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）」が開放されます。
- クーリングシェルターへの避難は必須ではありませんが、自宅に涼める環境がない場合は積極的に活用し、熱中症による健康被害の防止に努めましょう。
- クーリングシェルターのほか、県では、熱中症予防のための休憩場所の提供に御協力いただける施設を「みやぎの涼みどころ」として登録・公表しています。

警戒アラートや特別警戒アラートの発表状況にかかわらず開放していますので、各施設に掲示されているステッカーやポスターを目印に御活用ください。



「みやぎの涼みどころ」

[https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-s/cool-spot\\_summary.html](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-s/cool-spot_summary.html)

## 令和6年7月豪雨と気候変動の影響について

株式会社双葉建設コンサルタント 代表取締役 海 藤 剛

### 1. はじめに

令和6年7月24日からの大雨により、山形県・秋田県を中心に甚大な被害を受けました。私は一般社団法人山形県測量設計業協会の会長として、山形県との協定に基づき、早期復旧に向けた応急対策業務（災害箇所調査及び災害査定関連業務）を実施しました。現在もその復旧にむけた実施設計等に従事しています。一方、私はライフワークとして「地球温暖化対策は究極の防災」として考え興味を抱き、平成18年から地球温暖化対策推進員として活動し、山形県最上地方を拠点とするのがみ地球温暖化対策協議会の会長として小学校への出前講座や地域イベントに参加し普及啓発活動を行ってきました。今回は上記観点から今回の災害について各省庁が発表したデータとともに私見を述べたいと思います。

### 2. 気象と災害の状況

7月24日から26日にかけて線状降水帯が発生し、3日間の降水量が400mmを超え、記録的な大雨となりました。この大雨により秋田・山形県を中心に河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生し、人的被害、住家被害等が発生しています。（以下、山形県被害について述べます）



警察官2人を含む3人がなくなるなど、県内の自然災害で過去最悪となった7月の大雨＝7月26日、新庄市本合海

被害額は史上最多の1,111億円となり、公共土木施設関係のみでは市町村を合わせて755億円となりました。

■被害状況（令和6年8月8日14時00分内閣府よりまとめによる\*） 山形県のみ抜粋  
 ・死者3名、負傷者1名、住家全壊9棟、住家半壊8棟、住家一部破損9棟、床上浸水379棟、床下浸水739棟  
\* 内閣府よりまとめでは、大雨特別警報を発表した当該事例前後の大雨被害も収録している

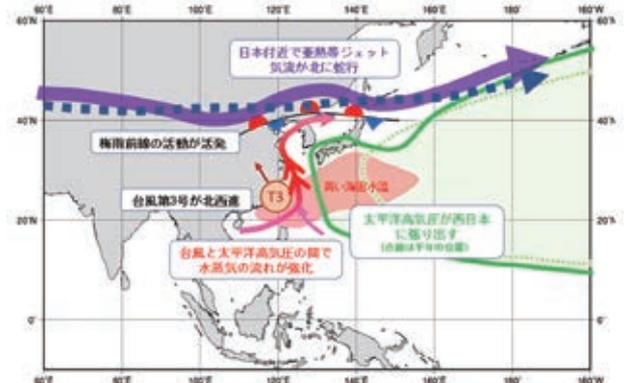
#### (1) 公共土木施設関係

区分	被災数	前同比	被害額（億円）	前同比
県	道 路	650箇所	約 97	—
	河 川	1,053箇所	約 471	—
	砂 防	66箇所	約 21	—
	上下水道等	3箇所	約 0.4	—
計			約 590	—
市町村	道 路	252箇所	約 91	—
	河 川	73箇所	約 24	—
	砂 防	—	約 —	—
	上下水道等	19箇所	約 51	—
計			約 166	—
合 計			約 755	—

### 3. 気象庁発表のデータ

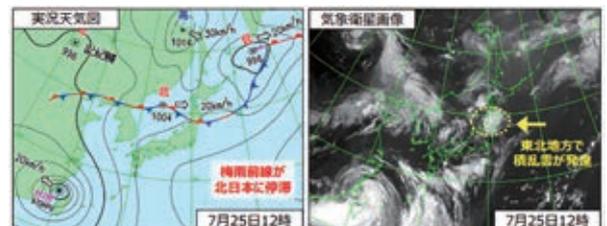
令和6年9月2日に気象庁より報道発表があった「令和6年7月以降の顕著な高温と7月下旬の北日本の大雨の特徴と要因について」では、本災害の引き金となっているのは7月以降の記録的高温であり、実際に令和6年7月は全国の平均気温が昨年（2023年）の記録を上回り第1位であったことが挙げられました。また、長期的な地球温暖化に加え、春まで続いたエルニーニョ現象等の影響で、北半球中緯度の気温が顕著に高かったことなども要因の一つのことでした。

さて、7月24日からの現象についての記載を見ると、下記のように記載がありました（以下気象庁HPより抜粋）。



7月下旬に北日本に大雨をもたらした大規模な大気の流れに関する模式図

- ・西日本に張り出した太平洋高気圧と中国南部を北西進した台風第3号との間で北向きの水蒸気の流れが強まり、多量の水蒸気が北日本に停滞していた梅雨前線に向かって流れ込み、梅雨前線の活動が活発化した。
- ・海面水温が高かった沖縄・奄美周辺海域から、豊富な水蒸気が供給された可能性がある。また、上空に寒気が流入した際は線状降水帯が発生し記録的大雨となりました。



7月25日に、山形県に対して特別警報を発表した際の気象状況

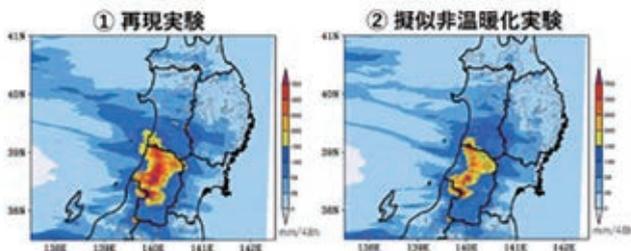
実際の7月25日の実況天気図と気象衛星画像を示しますが、25日12時の段階で上述の事象が起こっていたと考えられます。

また、先述の報道発表では地球温暖化の影響についても記載されており、「地球温暖化がなかったとして仮定した条件下では今回の高温はほぼ発生しなかったことや、地球温暖化の影響で大雨における降水量が増加した可能性がある」と記載されていました。

4. 文科省発表のデータ

先に示した気象庁と同じ9月2日に文部科学省からも報道発表があり下記に示す発表がなされました。

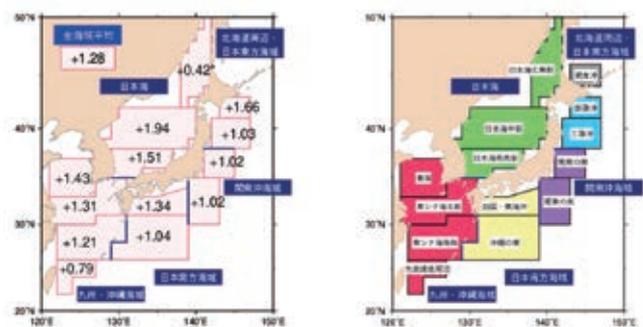
一方、7月24日から26日に山形県周辺で発生した大雨を対象に地球温暖化の影響を評価したところ、地球温暖化が無かったと仮定した場合と比べて総雨量(48時間積算雨量)が20%以上増加していたことが確認されました。



これは気候変動予測先端研究プログラムを通じたシミュレーションによるもので、左が再現された雨量データで、右が温暖化してなかったと仮定した場合のデータです。

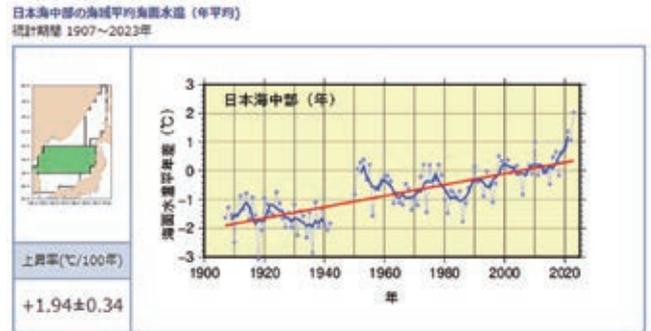
5. 日本近海の海水温

地球温暖化の結果として引き起こされる気象変動ですが、結果として見ることができる海水温の上昇について気象庁のデータを見てみると下記ようになります。



日本近海の海域平均海面水温(年平均)の上昇率(°C/100年)(左図)と海域区分(右図)

日本近海における2023年までのおよそ100年間にわたる海域平均海面水温(年平均)の上昇率は+1.28°C/100年です。世界全体での上昇率+0.61°C/100年よりもかなり大きくなっており、特に日本海中部での+1.94°C/100年は突出しています。



6. おわりに

各省庁のデータの紹介を行ってきましたが、筆者はこれらのデータの是非について論じる立場にはありません。ただ、実際に気象変動に寄与するであろうデータ(海水温の上昇や気温の上昇)を鑑みると、東北地方の建設コンサルタントの一員として色々と考えさせられます。

まずは災害に備えること。BCPはもとより、災害ありきで物事を行うことの重要性を再認識させられました。この度の豪雨災害で陣頭指揮を行ってきましたが、準備が充分でないこと、協力をしてもらうための仕組みになっていないことなどを痛感させられました。今回の経験をもとに様々な取組みをしなければならないと考えています。

次に国土強靱化予算の確保の必要性です。東北地方は海水温の上昇に伴う豪雨災害が毎年起こっています。事実、近年の大雪についてもこの影響ではないかと考えられます。流域治水をはじめとする様々なことをしっかりと行っていくことこそが国民の安全と安心を確保することに繋がると感じます。防災に尽力することのほうが、被災した時よりもはるかに安価であることを伝えていきたいと思います。

また、地球温暖化対策の重要性です。40歳のとき地球温暖化対策は究極の防災であると感じたことは間違いではなかったことを再認識しました。

最後に日頃より温暖化対策をご指導いただいております東北芸術工科大学三浦秀一教授には、この度様々なデータについてご紹介いただきましたことに感謝を申し上げます。

## まえがき

### 東北インフラツーリズム（ダム篇）

インフラツーリズムとはインフラ施設を観光の対象とし、その魅力や重要性を学ぶことを目的とした新しい観光の形です。道路、橋、鉄道、空港、ダムなど、普段は立ち入ることのできない施設の内部を見学し、専門家の解説を聞くことで、インフラの裏側にある技術や完成に繋がる努力を知ることができます。特に震災復興の象徴となる施設や、地域の自然環境と調和したインフラは、地域の歴史や文化を理解する上で重要な役割を果たしています。インフラツーリズムは、地域の魅力を再発見し、インフラの重要性を再認識する機会を提供します。また、観光客にとっては新たな学びと体験を得る場となり、地域経済の活性化にも寄与します。



#### 東北におけるインフラツーリズム

東北地方は、その美しい自然景観や豊かな文化遺産で知られていますが、同時に多くの重要なインフラ施設が存在する地域でもあります。これらのインフラは、地域の発展と住民の生活を支える重要な役割を果たしています。東北には震災復興の象徴となる施設や、自然環境と調和したインフラが数多く存在します。

これらの施設を訪れることで、地域の歴史や文化、技術の進歩を学ぶことができますし、地域経済の活性化にも寄与します。観光客が増えることで、地元の飲食店や宿泊施設が賑わい、地域全体の経済が活性化します。さらに、環境意識の向上や、非日常的な体験を楽しむことができる点も魅力です。

東北地方のインフラツーリズムを通じて地域の新たな一面を発見し、その素晴らしさを感じてみませんか？

JCCA TOHOKUでは、東北6県のインフラツーリズムとしてダムや橋梁などを数回に分けて紹介してまいります。第1回目となります70号では、東北各県のダムにまつわるインフラ施設をご紹介します。どうぞご家族で東北のインフラ施設を満喫してみてください。



## 【青森県】 津軽ダムにおけるインフラツーリズムの取り組みについて

東北地方整備局 岩木川ダム統合事務所 調査課長 五十嵐 悟

### はじめに

一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様には、日頃より公共事業に係る業務を通して、建設行政の進展に多大なる御尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

岩木川ダム統合管理事務所は、一級河川岩木川水系の岩木川上流に位置する浅瀬石川ダムと津軽ダムの2つのダムを管理しています。現在、津軽ダムの来訪者数は年間約1.3万人<sup>\*1</sup>で、ダム立地自治体である青森県中津軽郡西目屋村の観光客数全体の約21万人<sup>\*1</sup>に対して約6%の方がダムに来訪していると考えられます。本稿では津軽ダムとダム立地村である西目屋村におけるインフラツーリズムの取り組みについて紹介します。

### 西目屋村と津軽ダム

西目屋村は、青森県の西部に位置する県内一人口が少ない村で、人口は約1,200人（令和7年2月3日現在）、村の主な産業は農業と観光です。自然豊かな環境を持ち、村の約16%を占める白神山地が世界自然遺産に登録されています。アクセス面ではJR弘前駅から車で約30分の距離にあり、日帰りのできる自然が豊富な観光地となっており、世界自然遺産の白神山地の中にある「暗門の滝」へのトレッキングや岩木川の溪流でのラフティングなどの体験型観光が楽しめます。



津軽ダムと西目屋村の位置

津軽ダムは、平成29年に管理に移行して今年で9年目となるまだ新しいダムです。立地自治体と共同し、水源地域と周辺の豊かな自然環境・景勝地等を活用し、地域連携しながら地域の活性化や交流人口の拡大のため、ダムのインフラツーリズムに積極的に取り組んできました。そのなかで主なものを三点紹介します。

### 「ニシメヤ・ダムレイクツアー」

水陸両用バスが「道の駅津軽白神ビーチにしめや」より出発し、津軽ダムの巨大なダム湖「津軽白神湖」へ水しぶきを上げながらスプラッシュインし、湖上遊覧を堪能できる「ニシメヤ・ダムレイクツアー」は平成29年から運行し、8年目となる昨年には延べ乗客数が7万人を超える人気のツアーとなっています。このツアーでは毎月第4金曜日（今年度は毎月第3金曜日の予定）には、湖上遊覧の後に津軽ダム堤体内も見



津軽白神湖へ入る水陸両用バス



水陸両用バスの発着場所となっている道の駅津軽白神ビーチにしめや

学できる「スペシャルツアー」を行っており、ご好評いただいています。

このようなダム湖を活用した水陸両用バス運行は、東北では2カ所のみと珍しさでも目を引くものとなっており、これにより周囲の売店やレストランの売り上げが向上し、周辺宿泊施設への客足の増加が見られました。<sup>※2</sup>

### 「ダム見学」

津軽ダムではダム見学のコースを複数設定し、見学者の体力、知識及び時間的制約など、それぞれにあった見学を行っています。

基本的なコースは、津軽ダムの目的や建設の経緯などの基礎情報を説明したあと、ダムの天端で実物を見ながらのダム堤体や周辺設備の解説、その後、ダム堤体内へ入り堤体内の気温を体感した後に、津軽ダムの特徴でもある「国内最大級の引<sup>しらかみ</sup>張<sup>ふるさとぼし</sup>りラジアルゲート」の見学、そしてダム下流の「白神が故郷橋パーク」へとぬけて、特大ダムカードフォトフレームで記念撮影し、ダム下流駐車場で解散となります。この基本的なコースをベースに見学時間、コースの異なる5種類の見学コースがありそれぞれのニーズに合った見学を行うことができます。



特大ダムカードフォトフレームで記念撮影

### 「ダム堤体ライトアップ」

津軽ダムの堤体ライトアップは、春夏秋冬それぞれの地域の行事などに時期を合わせたライトアップのほか、世界赤十字デー（5/8）の「レッドライトアップ」、水の日（8/1）・水の週間（8/1～8/7）の「ブルーライトアップ」、「クリスマスライトアップ」など、1年を通じての取組となっています。特に昨年の春のライトアップでは、地域のさくらまつりが軒並み前倒しされたため、ライトアップも前倒して例年より10日ほど長く25日間実施しましたが、前年の約6倍を超え

る約700人の来訪がありました。投光色は5分毎に配色を変え、季節や年度ごとに色変化の内容も変えてマンネリ化を防いでいます。近年ではBGMを流したり、津軽ダムのマスコットキャラクター「ベッカー君」の動画も壁面に投影して、ライトアップを盛り上げています。



ライトアップとマスコット動画に照らされる堤体

また、昨年度からはライトアップ期間限定で御朱印を模した「ダム印シール」を配布しており、SNSでの反応も上々でした。



ライトアップごとに異なるダム印シール

### さいごに

今後は立地自治体である西目屋村だけでなく、水陸両用バスを運行している津軽白神ツアーやイベントで協力していただいている白神山地ビジターセンター、情報発信をしてくださっているClan PEONY津軽並びに弘前観光コンベンション協会などと、より一層連携し誘客できるインフラツーリズムにできるよう試行していきたいと思ひます。

※1 令和5年青森県観光入込客統計より

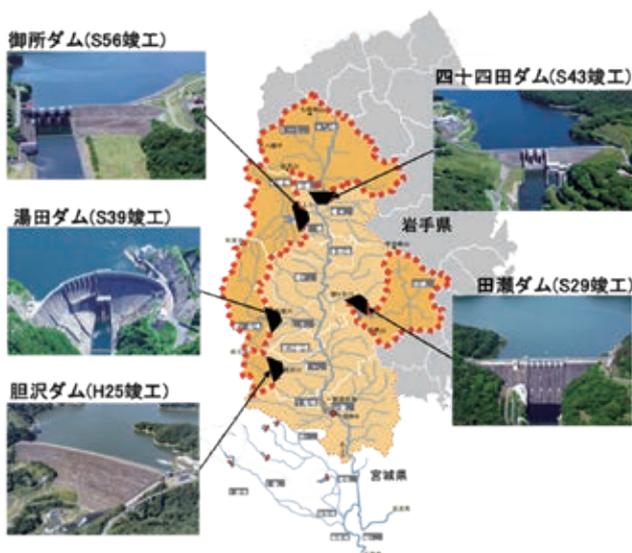
※2 一般財団法人水源地環境センターHPより



## 【岩手県】 北上川五大ダムにおけるインフラツーリズムの取り組み

東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所 所長 小田桐 淳 司

当事務所では、北上川上流の5つのダム（以下、「五大ダム」という）を管理しているが、これらのダムの流域を合わせると北上川上流域の4割以上を占めており、北上川の治水上極めて重要な役割を担っている。また、利水においても灌漑や発電、水道に加え、近年では北上工業団地の半導体産業にも水を供給しているところである。最も古い田瀬ダムでは、昨年10月で竣工から70年を迎えるなど、長年にわたって地域に貢献してきており、令和3年には地域を支えた多目的ダム群として「選奨土木遺産（土木学会）」に認定されている。



図：五大ダムの位置図

ダム毎にそれぞれ特徴を有しており、直轄の多目的ダムとして初めて着手し、「機械遺産（2019年）」に認定された高圧ゲートを持つ田瀬ダム、我が国では数少ない「重力式アーチダム形式」で、クレストゲートの減勢工として「ジャンプ台方式（フリップバケット）」を採用し、豪快な放流で人気がある湯田ダム、アースフィルとコンクリートの複合形式の四十四田ダム、ロックフィルとコンクリートの複合形式の御所ダム、そして「我が国最大級のロックフィルダム」である胆

沢ダムがあり、それぞれのダム自体が観光資源となっている。その中でも湯田ダムは昨年の「大人の休日倶楽部」のツアーに組み込まれた実績もある。

また、歴史的な施設であるが故にダム周辺には多くの遺構が残されており、田瀬ダムや湯田ダムでは工事で使用した仮設備跡が間近で見られるほか、湯田ダムでは貯水位が低下するとダム湖に沈んだ「横黒線（現北上線）」や「発電ダム」などの遺構も見ることができ、昨年実施した「遺構見学会」には



写真：湯田ダムの遺構（横黒線）

関東方面からも参加があったほか、報道機関からも大きく取り上げられたところである。

ダムに関連した施設だけではなく、周辺には豊かな自然や美しい景観が広がっており、春には「水没林」、秋には圧倒的なスケールの「紅葉」を見ることができ、それらを眺めながら、ダムの湖面や下流の河川ではSUPやカヌー、ラフティングなどの「アウトドアアクティビティ」が盛んである。特に胆沢ダム下流に位置する「奥州いさわカヌー競技場」は、ダムから安定して水が供給できること



写真：奥州いさわカヌー競技場

から、我が国屈指のカヌーコースとされており、「ジャパンカップ」等が開催され、日本代表の合宿地としても利用されている。

また、四十四田ダム下流をスタート地点として実施される「北上川ゴムボート下り大会」は、完走艇数が815艇で「ギネス記録（2015年）」

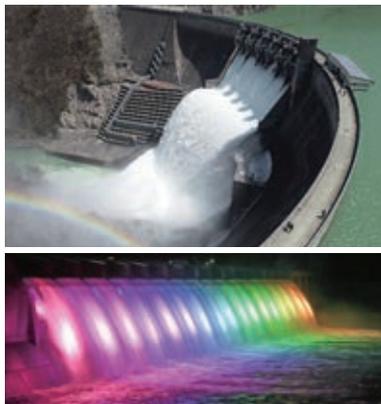


写真：北上川ゴムボート下り大会

を樹立したこともある。さらに、田瀬湖の日本ボート協会認定2000mコースでは数々の大会が開催され、日本代表の合宿地ともなっている。これらは、ダムからの放流やダムが造り出した湖を活用して行われており、ダムならではの資源である。

このほか、ダム湖周辺では水源地域の環境整備も行われており、特に御所ダムでは広域のレクリエーション基地となる「県立御所湖広域公園」が整備され、ダム沿いにある「盛岡手づくり村」や「つなぎ温泉」などと相まって、来訪者が年間100万人を超え、直轄管理ダムで全国一位となったこともある。

ダムを活用した各種イベントも盛んであり、春には四十四田ダム構内に咲く約600本のソメイヨシノを楽しむ「さくらまつり」が開催され、多い年では1日で約5千人の来訪者が



写真：湯田ダムクレストゲート放流（上）  
湯田貯砂ダムのライトアップ（下）

があるほか、「ジャパン・ツーリズム・アワード（2019年）」で入賞した湯田ダムのクレストゲート放流、初夏から夏にかけてはダム湖に水上花火が打ち上げられる「錦秋湖湖水まつり」、「田瀬湖湖水まつり」、「御所湖まつり」が開催されている。夏の人気スポットである「湯田貯砂ダム（錦秋湖大滝）」は、内部に入って流れ落ちる水のカーテンを見ることができる全国的にも珍しい施設であり、夏から秋にかけて行われるライトアップは「日本夜景遺産（2020年）」に認定されている。胆沢ダムでは「ダムフェス」と称して春・夏・秋に様々なイベントが開催され、高さ127mのダム堤体登山や内部の見学会、民間団体主催のカヌーやSUP等の体験、地元土地改良区の収穫祭やキッチンカーなどによる物販なども行われ、1日で数千人もの方々が訪れるなど、おおいに賑わっている。



写真：胆沢ダムフェスの堤体登山（左）と物販の様子（右）

現在、新たな取り組みも進めているところであり、田瀬ダムでは花巻市、遠野市の特産である「ワイン」を監査廊に貯蔵、熟成させて地域のPRやイベント等に活用しようとしているほか、湯田ダムでは東北地方の直轄管理ダムでは初となる「かわまちづくり」に西和賀町とともに取り組んでおり、地域の観光資源とのネットワーク化により、多くの方に来訪いただける水辺を整備している。昨年は一部施設が完成し「お披露目式」を開催した。



写真：かわまちづくりのお披露目式（左）、完成した親水護岸（右）

胆沢ダムでは奥州市と連携し、民間事業者がダムの施設を活用して収益活動を行う「河川空間のオープン化」に取り組んでおり、民間事業者が収益を上げることで、持続可能な活動や賑わいの創出を目指している。

このように五大ダムやその周辺地域では、多くの魅力や資源が溢れており、来訪者を呼び込むポテンシャルも高く、国土交通省が提唱する「ダムツーリズム」の適地になっていく可能性を秘めているものと考えている。

このような五大ダムを建設することができたのは、ダム建設に携わった先人達の努力があったことはもちろんであるが、先祖伝来の貴重な土地の提供や家屋の移転など水源地域の方々にご協力をいただいたお陰であると考えており、そのご協力に報いるためにも水源地域の活性化に向け積極的に取り組んでいるところである。

今後もより多くの方々に五大ダムを訪れていただくことで、さらなる賑わいの創出へとつながっていくとともに、水源地域の方々に喜んでいただけるよう、ダムというインフラを最大限に活用した様々な取り組みを進めていきたい。



## 【秋田県】 インフラと自然が織りなす魅力の郷 ～成瀬ダムから広がる東成瀬村の新しい魅力～

東邦技術株式会社 石塚 三雄

秋田県の最南端に位置する東成瀬村で、国内有数の規模を誇る成瀬ダムの建設プロジェクトが佳境を迎えています。このダムは、日本の土木技術の粋を集めた画期的な取り組みの結晶です。日本独自のCSG工法を採用し、完成すれば台形CSG型式のダムとしては日本一の高さとなる壮大な建造物です。



建設現場では、最新のICT施工技術が随所に活用されています。鹿島建設が開発した建設機械の自動化システム「A4CSEL (クワッドアクセル)」をはじめとする先端技術により、効率的かつ安全な施工が実現されています。特に注目すべきは、この地域特有の気象条件への対応です。冬期には5m近い積雪を記録する豪雪地帯であるため、工事可能期間は年間でわずか6ヶ月程度。この厳しい制約の中で、様々な工夫を凝らしながら着実に工事が進められています。

成瀬ダムの建設は、単なるインフラ整備にとどまらず、地域の新たな観光資源としても注目を集めています。2024年8月に初めて開催された成瀬ダム祭りには約2000人もの来場者が訪れ、建設現場の見学ツアーや地域の食文化を楽しむイベントとして、地域の新たな魅力を発信する機会となりました。この成功を機に、今後も地域活性化の重要な取り組みとして期待されています。

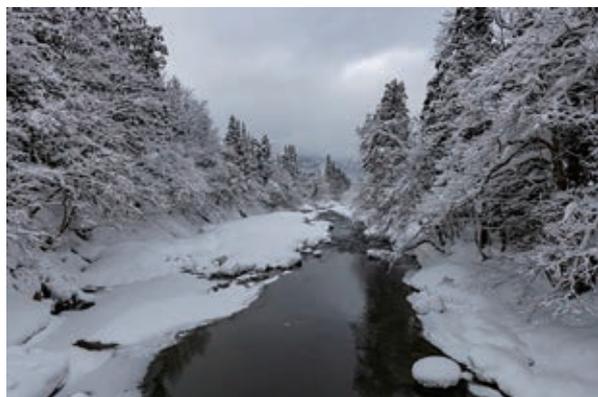
東成瀬村は2009年に「日本で最も美しい村」連合に加盟した自然豊かな地域です。栗駒国立公園の一部を形成し、清らかな湧水、ホテルが舞いイワナが泳ぐ清流など、手つかずの自然が今なお色濃く残されてい

ます。村の地名の由来となった成瀬川は、村を南北に流れ、四季折々の美しい景観を創り出しています。



教育面でも、東成瀬村は特筆すべき特徴を持っています。「学力日本一の村」として全国的に知られ、独自の小中連携教育システムや充実した教育環境により、国内外から高い評価を受けています。全国平均の4倍以上という児童一人当たりの図書費予算や、高い授業参観出席率など、村を挙げての教育への取り組みは、視察に訪れる教育関係者からも注目されています。

自然と観光の面では、四季それぞれに異なる魅力を堪能することができます。



春には新緑に包まれた山々が美しく、夏には不動滝周辺でのゲンジボタルの幻想的な光の乱舞が見られます。秋には日本二百名山に選定されている栗駒山や焼石岳での紅葉狩りが楽しめ、冬には真っ白な銀世界と温泉でくつろぐことができます。

温泉も村の大きな魅力の一つです。



村南部の須川温泉は強酸性みょうばん緑ばん泉として国内第2位の湧出量を誇り、北部のやまゆり温泉はアルカリ性単純硫黄温泉として国内第3位のpH値を記録する温泉です。これらの温泉は、その希少な泉質から、健康や美容を目的とした湯治客にも人気があります。

東成瀬村は「仙人の郷」としても知られており、1984年から続く夏の風物詩「仙人修行」は、村の特徴的な文化体験プログラムとして定着しています。



2泊3日にわたって行われる修行では、断食、座禅、写経、そして落差約20メートルの滝行など、心身を清める本格的な修行を体験できます。全ての行程を終えると晴れて仙人として認定され、証書が授与されます。



この体験は、現代社会の喧騒から離れ、自分を見つめ直す貴重な機会として、都会からの参加者にも好評です。

村の新しい魅力として注目を集めているのが、スリランカカレーです。成瀬ダム建設に携わる約170人のスリランカからの実習生たちの故郷の味を忠実に再現したこのカレーは、本場の辛さと風味を堪能できると評判です。レトルトパックや村内の飲食店で提供されており、建設事業がもたらした異文化交流の象徴として、新たな村の名物となっています。



レジャー施設も充実しており、ジュネス栗駒スキー場では、良質なパウダースノーでウインタースポーツを楽しむことができます。また、村内には散策路や自然観察ポイントが整備され、季節に応じた自然体験プログラムも提供されています。

アクセスは、秋田市から車で約2時間。最寄りの駅からはバスも運行されており、公共交通機関でも訪れることができます。成瀬ダムの建設現場見学、仙人修行の体験、温泉めぐり、そして四季折々の自然景観など、インフラと伝統、自然が見事に調和した東成瀬村は、都会の喧騒を離れ、心身をリフレッシュできる理想的な旅先となっています。

この村では、最新の土木技術と伝統文化、豊かな自然が織りなす独特の魅力を体験できます。成瀬ダムの完成は、この地域に新たな観光の可能性を開く契機となることでしょう。四季を通じて様々な表情を見せる東成瀬村で、あなただけの特別な思い出を作ってみませんか。

## 【宮城県】 鳴子ダムにおけるインフラツーリズム

東北地方整備局 鳴子ダム管理所 専門官 木村 康文

鳴子ダムは、北上川水系江合川の上流部（通称荒雄川）に建設された、堤高94.5m、堤頂長215mのアーチ式コンクリートダムで、昭和27年に着工、昭和32年10月に完成し、ダム管理に移行しています。アーチ式コンクリートダムとしては、初めて外国の技術者を招かず、日本人技術者だけで建設されたダムで、平成28年9月に、東北で初めて、推奨土木遺産に認定されました。

### 1. 鳴子ダムすだれ放流

毎年4月下旬から5月初旬、農業用水の供給のためダムの貯水量を最大にする必要があることを利用し、鳴子ダムの非常用洪水吐きから自然越流させる、「満水時放流点検」を実施しています。鳴子ダム堤体を水が越流し滝のように流れる姿がすだれに見えることから、「鳴子ダムすだれ放流」として、鳴子ダムを訪れる方々に勇壮な姿をお楽しみ頂いております。今年も4月下旬頃に実施の予定ですので、みなさまどうぞ鳴子ダムにおいで頂き、この時期にしか見られない勇壮な姿をご堪能下さい。



### 2. 鳴子ダム直下見学ツアー

「鳴子ダムすだれ放流」の実施に合わせ、(一社)みやぎ大崎観光公社にて、「鳴子ダム直下見学ツアー」と題して、鳴子ダムの堤体直下から、ダム堤体と勢いよ

く流れるダム放流を間近で感じられるツアーを開催しています。「ガイドと歩く「ノルディックウォーキングツアー」」と、「らくらく移動「バスツアー」」の2つのコースを用意して、毎年この時期に実施しておりますので、(一社)みやぎ大崎観光公社のホームページなどをチェックしていただきますようお願いいたします(令和7年度の実施についてはまだ未定です)。



### 3. 「あつまれ！鳴子ダム」

鳴子ダムでは、国土交通省にて毎年7月下旬に実施している「森と湖に親しむ旬間」の行事として、鳴子ダム貯水池上流の荒雄湖畔公園において、水源地域の森林と水環境を学ぶイベント「あつまれ！鳴子ダム」を開催しています。「森林教室・木工教室（巣箱を作ってみよう）」、「親子ダム湖探検ツアー」、「森と遊ぼう!」、「手作り体験 ペットボトル万華鏡」、「電力出前教室」、「チャレンジ！スナッグゴルフ」とたくさんのコースを用意し、ご参加頂いた多くの親子に楽しんで頂いております。令和7年度も開催予定です。各コース毎に定員が有り、人気のコースはすぐに満席となりますのでご注意くださいようお願いいたします(申し込み開始に合わせ、専用WEBサイトを開設いたします。なお、大人だけの参加はできませんのでご了承下さい)。



4. 鳴子ダム見学会

鳴子ダムでは、ダムの見学をご希望される方を対象として、「鳴子ダム見学会」を開催しています。平日の9:00から17:00の間で、2名以上の団体様であれば、どなたでもお申し込みいただけます。鳴子ダムホームページをご確認いただき、2週間前までにお申し込み下さい。

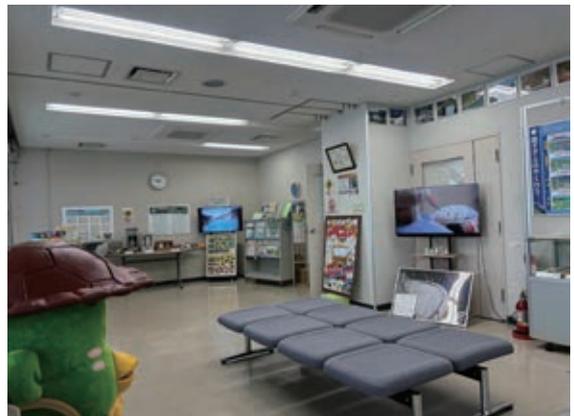


5. 鳴子温泉郷に宿泊して鳴子ダム堤体見学しよう！

（一社）みやぎ大崎観光公社では、「鳴子温泉郷に宿泊して鳴子ダム堤体見学しよう！」と題しまして、お客様のご希望に合わせて鳴子温泉郷での宿泊と鳴子ダム見学をセットにした旅行を手配しています。（一社）みやぎ大崎観光公社にていつでも受け付けておりますので、（一社）みやぎ大崎観光公社のホームページからお申し込み下さい。

6. 鳴子ダム展示室

鳴子ダム管理所では、一階の一室を「鳴子ダム展示室」として、毎日8:30から17:00の間解放しております（12/29～1/3を除く）。鳴子ダム建設時に使用していた機材や、デジタルサイネージによる鳴子ダム及び鳴子地域の映像、ダムに関する書籍等を観覧することができます。展示室では、外国の方の見学にも対応できるよう、五カ国語のリーフレット、ダムカードを用意いたしました。申し込み等はいりませんので、みなさまどうぞご自由にご観覧下さい。



## 【山形県】 ダムインフラツーリズムの推進による地域活性化への取り組み

山形県村山総合支庁建設部 山形統合ダム 管理課 渋江 勇 樹

### 1. はじめに

山形県山形統合ダム管理課は山形市に位置し、県の中央部の村山地方に設置されている4つの県管理ダムを管理しています。ここでは当課におけるダムインフラツーリズムの取り組みについてご紹介します。

山形統合ダム管理課が管理する4つのダム

ダム名	主な諸元	機能
蔵王ダム (山形市)	高さ66m、堤長273.8m 有効貯水量5,200千m <sup>3</sup>	洪水調節・河川流量の維持・ 水道・管理用発電
前川ダム (上山市)	高さ50m、堤長265.5m 有効貯水量4,100千m <sup>3</sup>	洪水調節・河川流量の維持
白水川ダム (東根市)	高さ54.5m、堤長367m 有効貯水量4,600千m <sup>3</sup>	洪水調節・河川流量の維持・ かんがい・管理用発電
留山川ダム (天童市)	高さ46m、堤長115m 有効貯水量1,000千m <sup>3</sup>	洪水調節・河川流量の維持



### 2. ダム見学への対応

管理ダムの見学は、原則5名以上で平日の対応可能な時間帯であれば随時受け付けており、年間合計500人程を案内しています。この中で白水川ダムでは市内の小学校が社会科見学で訪れており、ダムの役割について勉強してもらうほか、薄暗く急な階段があるダム監査廊で探検気分を味わいます。普段は静かなダムも、この時は子供たちの元気な歓声が響き渡ります。



小学生のダム見学の様子

また、蔵王ダムは全国に13基しかない「中空重力式コンクリートダム」という、内部に空間がある珍しい造りのダムとなっており、多くの団体が見学に訪れています。実際に内部を案内すると、ほとんどの方が空洞内部の想像以上のスケールに驚いています。



蔵王ダム内部の空洞

### 3. ダムカードの配布

ダムカードは、全国の数多くのダムにおいて配布される、ダムの情報などが記載されたカード形式のパンフレットです。基本的に現地を訪れないと手に入らないため、コレクションとして集める人も多くいます。

当課ではこれまで蔵王ダムのみ配布してきましたが、広く県外から多くの方々が訪れていただいていることから、ダムツーリズム推進の一環として、他の3ダム

についても令和6年5月から新たに配布を始めました。今年度は各ダム約1,000人の方がダムを訪れ、そのうち3分の2程が県外からの来訪でした。

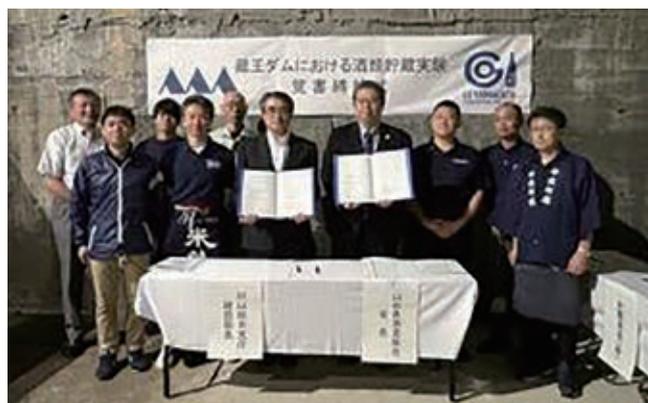


管理4ダムのダムカード

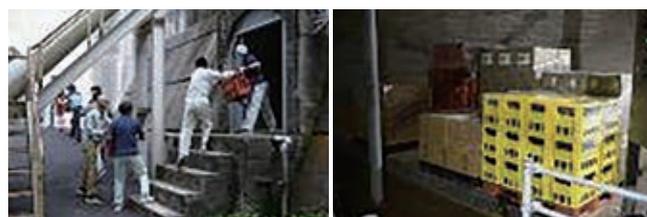
#### 4. ダム内部における酒類の貯蔵実験

ダムの堤体内部は年間を通して気温が約10℃前後と安定していることから、この特徴を利用して、山形県では令和6年度からダム内部に酒類を貯蔵する取り組みを試験的に始めています。

実験1年目となる昨年は、酒造組合との協議、調整の結果、蔵王ダムに日本酒、前川ダムにワインを貯蔵することが決まり、まず河川占用許可の手続きや酒税法に基づく酒類蔵置所の設置手続きなどが進められました。そしていよいよ9月17日にまず蔵王ダムにおいて覚書の締結式及び酒類の搬入が行われました。この締結式は、蔵王ダムの中空重力式コンクリートダムという特徴を生かして堤体内の空洞で行われ、当日はマスコミの取材によりこの取り組みがテレビなどで紹介されました。



蔵王ダム内部で行われた覚書締結式



蔵王ダムの搬入及び貯蔵状況（日本酒）



前川ダムの搬入及び貯蔵状況（ワイン）

前川ダムでも10月までにワインの搬入が完了し、現在各ダムで酒類が貯蔵されています。今後、事業者によるダム貯蔵の効果が検証され、品質に問題なければダム貯蔵酒として出荷される見込みとなっています。なお、出荷の際にはダムで貯蔵した酒であることをラベルなどに明記することとなっています。これにより、ダムのPR効果のほか、ダムで貯蔵したお酒という話題性による消費拡大で地域活性化に寄与することを期待しているところです。

さらに、これまで事業者が酒類貯蔵のために空調設備などで温度管理していたところを設備不要で貯蔵するため、コスト縮減及び脱炭素社会づくりにも貢献するものであると考えています。

酒類貯蔵実験を実施中のダム

ダム名	市町名	種類と本数
蔵王ダム	山形市	日本酒（計8社）計約2,300本
前川ダム	上山市	ワイン（1社）約4,500本

#### 5. ダムインフラツーリズムの推進に向けて

ダムは山奥の人目のつかないところに位置することが多く、一般の方々のダムへの認知度は低い状況にあると感じています。ダムインフラツーリズムは、ダムの存在を認識し、その役割や重要性を理解してもらうための重要な取り組みであり、さらに観光交流の活発化などによる地域活性化に寄与するものであるため、今後もさらに力を入れて取り組んでまいります。

## 【福島県】 ふくしまインフラツーリズムの取組について

福島県土木部 まちづくり推進課 副主査 北川 幸 祐

### 1. ふくしまインフラツーリズムについて

福島県では、令和4年度から「ふくしまインフラツーリズム推進事業」として、県内のダムや橋などの公共土木施設（インフラ）を地域固有の観光資源として捉え、県内外からの来訪による交流人口拡大を図るため、様々な取組を行っています。

これまで、県内のインフラ施設を観光地と一緒に周遊できるモデルコースの設定やインフラ施設を紹介するポータルサイトの開設による情報発信、モニターツアー（県内4コース）の実施等に取り組んできました。

そして今年度は、SNSアカウント（X、インスタグラム）の開設や旅行関係団体向けツアー（以降、ファミツアーとする）の実施等を行うことで、更なる情報発信に取り組んでいるところです。

## ふくしまインフラツーリズム INFRA TOURISM IN FUKUSHIMA

図1. ふくしまインフラツーリズム、ロゴマーク

### 2. 取組内容について

#### (1) ファムツアー

ファミツアーは、旅行関係団体を招待してPRを行い、旅行商品造成を促すものです。この事業では、着地型の旅行商品造成を見込んで、旅行会社だけでなく地元の観光協会等の観光地域づくり団体（以降、DMOとする）も招待しPRを行うこととし、今年度は、県内10箇所のダムや橋梁、県営球場等を見学先に含めたツアーを計5回実施しました。

ファミツアーによるダム案内の際には、担当職員による建設の歴史や役割、仕組みを説明の後、実際に歩いてダムを見ていただき、スケールの大きさを感じていただきました。

ダムの説明については、その仕組みをより理解していただきやすいように簡単な模型（写真1）に水を流して理解を促すなど、職員が工夫し案内をしています。また、1回のツアーで数カ所のダムを見学してい

ただくこともあり、参加者からは「一口にダムと言ってもそれぞれ特色があり面白い」という評価もいただきました。



写真1. 施設案内の様子（福島県木戸ダム）

#### (2) 施設案内研修・案内シナリオ作成

施設案内について課題整理を行う中で、説明の内容が専門的すぎて理解しづらいことや、担当者の異動により、その都度施設案内の準備に時間がかかるといった問題が挙がりました。そこで、案内の仕方について施設管理者への研修を行うとともに各施設の案内シナリオを作成するなど、品質を高め維持していく取組を行いました。

この取組により、ツアーでの施設案内の際は、作成したシナリオを用いて、誰にでも理解しやすい表現で説明することができるようになりました。



写真2. 施設案内研修の様子

(3) パンフレット・プロモーション動画

更なる広報の活動として、県内のインフラ施設を掲載したパンフレット（図2）や、施設見学の様子を収めたプロモーション動画（図3）を作成しました。



[https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/infra/pdf/digital\\_panf.pdf](https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/infra/pdf/digital_panf.pdf)



図2. パンフレット



<https://youtu.be/NHyK5Pbm69Y>



図3. プロモーション動画

これらについては、ふくしまインフラツーリズムのポータルサイトへの掲載を行ったうえ、県主催の旅行会社向け商談会への出展（写真3）や、インターネット広告での配信を行いました。



写真3. 福島観光商談会の様子

3. 取組の成果

令和6年度に実施した会津方部のファムツアー終了後、DMOの方からダムを題材にしたツアーを造成したいという提案がありました。その結果、日中ダムと東山ダムの2箇所と喜多方ラーメン（昼食）、漆器店での蒔絵体験を組み込んだ日帰りのバスツアーが企画され、定員15名に対し満員で催行されるという人気ツアーとなりました。



写真4. ダム巡りツアーの様子

4. 最後に

これまで「ふくしまインフラツーリズム推進事業」に関わっていただいた全ての皆様に、この場を借りて御礼申し上げますとともに、県外の方々にも是非ダイナミックなふくしまのインフラ施設に足を運んでいただければ大変嬉しく思います。

## 私のヨリドコ

国際航業株式会社 東北技術部 及川らん

### 1. はじめに

どうやら間もなく入社して一年経ってしまうようですが、まだまだ目の前の仕事に精いっぱい、果たしてこの貴重な一頁にお邪魔するのが自分で良いものか？ と思いつつも、張り切って書き綴らせていただきます。

ご紹介するのは、私の出身岩手県盛岡市西部に位置する憩いの場、日本さくらの名所100選にも選ばれている「高松公園」です。以下、私的解説を展開いたします。

### 2. 四季折々の表情を魅せる高松の池

高松公園をご存知の方がこの名前を聞いて初めに思い浮かぶ景色といえば、広い外周を桜の木にぐるりと囲まれた高松の池ではないでしょうか。盛岡城築城に伴う治水を目的に築かれた経緯を持つ池ですが、日露戦争記念事業として植えられたヨシノザクラにより桜の名所となりました。その数は千数百本にも及び、毎年美しい春の訪れを教えてください。勿論、開花と共に催されるさくらまつりの屋台も必見です。イチオシは盛岡の屋台名物、一休だんご。揚げ餅に甘じょっぱいタレを絡めたお花見の必食お供は、ぜひ熱々でどうぞ。

また、冬季は白鳥の飛来地としても有名です。早い時期には重厚な紅葉と、遅い時期には揺蕩う桜の花筏と共に、間近で白鳥を観察できます。なお、半世紀ほど前まではスケートも嗜まれ、大会まで開かれていたようです。現在は残念ながらチャレンジ不可ですが、暖かい時期になれば、代わりにスワンボートを楽しむことができます（ピンクのスワンに出会えたらラッキーかも！）。



高松の池と桜越しの岩手山



よちよち白鳥隊

### 3. 拡張！高松公園

数年前、高松公園に大きな変化が訪れました。池の北側エリア「こがねパーク高松」の開設です。“こがね”の名は、この地が黄金（こがね）競馬場こと旧盛岡競馬場跡地であることから。かつて競走馬たちが駆け抜けたトラックは、コンパクトになって地域住民の集う陸上トラックになりました。また、敷地内の広くはエコアス広場（盛岡市環境学習広場）として管理され、自然を学び親しめる環境や設備が設けられています。浅め設計のミニビオトープ池は、高松の池より至近距離で観察可能です。

ほどよい広さゆえにイベントも多々あり、例えば毎年5月中頃には雑貨食べ物何でもござれの「クラフトPARKたかまつ」が開催されます。遠路はるばる東北以外からの出店も増えており、色とりどりのテントやキッチンカーが大集合する様は大変心躍り見応えがあるんです。



こがねパークからも岩手山



接近！ビオトープ池

### 4. おわりに

部活終わりの帰り道に友達とまだ話し足りなかったり、あるいは、自分ひとりだけで嘸みしめたい気持ちが沸々と湧きあがったりして、どうにも真っ直ぐ家へ帰りたくないとき、私はいつもここに寄り道していました。どんなに浮かれた気分の日でも、ぺしゃんこに落ち込んだ日でも、相変わらずぶかぶか浮かんでいるカルガモたちを眺めては心が平らになりました。

皆さまにとって、心の拠る、足の寄る、お気に入りのヨリドコはありますか。

巡り巡ってほんのひとかけらでも、誰かのヨリドコに携わる技術者になりたいです。二年目も頑張ります。

## アイスホッケーと私「フェイス・オフ（試合開始）から試合終了まで」

大日本ダイヤコンサルタント株式会社 青森事務所 塩谷 明

### 1. 自己紹介

#### 1) Who is Shioya? (塩谷って誰?)

1992年6月に、旧大日本コンサルタントに中途採用で入社。以来、営業職として、盛岡、秋田、青森、新潟、盛岡、青森、仙台、青森と勤務してきました。

#### 2) これまでに嗜んできた趣味

学生時代は、中学から始めたフォークギター、エレキギター。社会人になってからは、スキー、モトクロス、スノーボード、アイスホッケー、インラインホッケー、ランニング、山歩きを楽しんできました。

その中でも一番長く続けているホッケーにまつわる話を紹介します。

### 2. プレーしているリーグの紹介

#### 1) 青森市アイスホッケー協会

青森県営スケート場を会場に、アイスホッケー（冬季）・インラインホッケー（春から初夏）の大会を開催。

#### 2) 青森県素人アイスホッケーリーグ

「氷都」八戸市で競技としてのアイスホッケー経験のない「素人」が主体のリーグ。参加資格が厳密に定められており、過去に競技経験がある場合は、一定の年齢にならないと参加できません。

### 3. アイスホッケーを始めたきっかけ

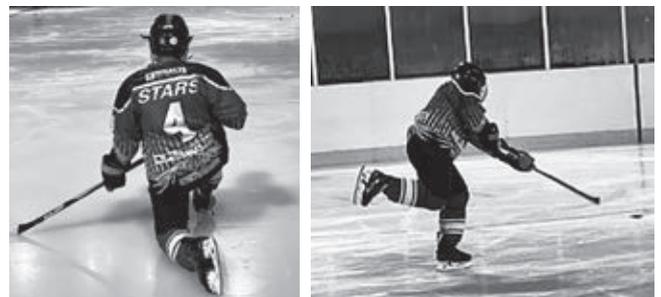
最初の青森勤務の時に、妻の実家は有りますが私自身は縁もゆかりもない土地へ来てゼロからの営業活動をしていた時に、仕事上ご縁が出来た大先輩から「知らない土地にきて大変だろうから、アイスホッケーと一緒にやって仲間っこを作りなさい」とのお言葉を頂き、チームに参加したのが始まりです。最初のチーム練習でマッチ（試合形式）を行い、無我夢中でバックを追いかけるのが楽しくなり今日に至っています。

### 4. ヨチヨチ歩きからスケート初心者へ

子供時代にスケートに縁が無かった私は、まずはスケートが滑れるようになるために、毎週末青森県営スケート場に通い詰めひたすら滑りました。

### 5. 試合の醍醐味

「スポーツは筋書きの無いドラマ」と言われますが、私が参加しているレベルでも毎試合どのような展開になるかは分からず、ワクワクした気持ちで試合に臨んでいます。確実にパスを味方に繋ぐ、バックを持ったら簡単には敵に渡さない、守りでは確実に相手のプレイヤーを止める事を積み重ねていくと、必ずチャンスが訪れます。チャンスを物に出来るかどうかは、普段からの鍛錬次第。あと一歩前に出れば！ バック一個分内側へシュートが出来て入れば！ と普段の練習不足を何回嘆いたことか…… 何事も、日々の積み重ねの大切さを、毎試合思い知らされています。



ある日の練習風景



チームジャージを新調した際に、会社にスポンサーになってもらいました。

## とりとめのないこと

株式会社ダイエツ 村上 愛澄美

今回このような機会をいただき、正直なところ少し戸惑いました。私が「技術者」でも「若手」でもないからです。特に何かを成し遂げたわけでもなく、誰かに紹介するような趣味や特技もない、しがない事務員です。こんな私ですが、これを機に、仕事や家族について感じてきたことを自分なりに文字に起こしてみたいと思います。

### ●事務という仕事と私

私のこれまでの職務経歴のうち、ほとんどを事務職が占めていますが、大学卒業後に社会人人生の第一歩を踏み出したのは、システムエンジニアとしての道でした。とは言っても、根っからの文系出身の私には少々ハードルが高く、開発工程よりも客先でのシステムデモや操作説明等が主な担当業務でした。会社の名前を背負って大勢のユーザーの前で話をするのはとても緊張するものでしたが、今思えばとても貴重な経験だったと思います。

3年目には総務部に配属になり、そこから私の事務員としてのキャリアがスタートしたわけです。キャリアと言うのも大袈裟ですが……。その後転職も経験しましたが、かれこれ十数年ずっと事務員です。

事務員は、言わば「何でも屋」だと思っています（少なくとも私のこれまでは、そうでした）。少し前に「名もなき家事」という言葉が話題になっていましたが、同じように会社の中の「名もなき仕事」もまさに私の仕事です。

一つ一つは簡単なことでも、やることが多岐にわたり、その分、必然的に多くの人と関わることになります。これが、事務職の大変なところであり魅力でもあると感じています。私自身、これまでたくさんの方々と一緒に仕事をさせていただき、ご指導いただきました。また、ありがたいことに、プライベートでも一緒に出掛けたり、家族ぐるみの付き合いをさせてもらうなど、職場の同僚という枠を超えて友人と呼べるまでの出会いにも恵まれました。これも、事務員としてあらゆる仕事を任せていただけたからこそこの事だと思っています。

### ●“わが子”のはなし

何でも屋として日々奔走する私のモチベーションとなっている大切な存在……。それは、数年前に出会い、その日のうちに家族となることを（夫の反対を押し切って）即決した我が家の愛犬です。いつか犬と暮らしたいと思っていましたが、そのいつかが突然やってきた感じでした。顔を見て、絶対にこの子がいい！！と思ったのです。

それから、生活はまさに愛犬中心となりました。初めは反対していた夫も、迎え入れた日から私以上に夢中のようなようです。そしてインドア派だった私も、休日は犬連れで楽しめる場所を求めて色々な所へ出かけるようになりました。ぐいぐいとリードを引っ張るやんちゃ娘に連れられて外を歩き、季節の移り変わりを感じる楽しさを知りました。言葉が通じない分、予定通りにいかないことも多々ありますが、彼女がいなかった生活を思い出せないほど、なくてはならない存在です。

これからもそんな“わが子”の健やかな成長を支えるべく、周りの方々に感謝しながら、日々の業務に励んでいきたいと思っています。



—守りたい、この笑顔—

## 私の「おしごと」

株式会社ドーコン 東北支店 岸本 康江

技術職ではない私に白羽の矢が立ちました。長年事務職としてこの業界一筋で働いてきた私が特筆できることはあまりないのですが、今までとこれからについて述べてみようと思います。

## ～ 建設コンサルタントとの出会い ～

私の就職活動は氷河期の始まりで、誰の世話にもなりたくないという謎の正義感から縁故入社話を断り、何を作っているか明確なメーカーを志望していましたが全て玉砕。選り好みをしていられる状況ではなかったため、聞き慣れない「建設コンサルタント」の世界に足を踏み入れました。(不本意と思われそうですが、何か問題でも！?)

社内に手書き用の大きな図面台があった時代です。(これで「長年」がどれだけ長いかわかっていただけだと思います)入社当時はメールやチャットなど今のよう便利なツールはなく、ダムの管理所で試験湛水業務(夜勤)に従事している社員と連絡を取るなんていうことは、至難の業でした。



推し1：和歌山アドベンチャーランドのパンダリフレッシュ休暇で会いに行きました

## ～ 想定外の修羅場の数々 ～

1社目では一般職と総合職の区別がなかったためか、そこまでさせられるかということが多々経験しました。転勤してきたばかりの課長が意気込んで「東北の全市町村に指名願を提出する！」と宣言したため、インターネットのない時代に電話で役所に何度も問い合わせをしながら書類を作成したこともいい思い出です。

経営計画に関わる書類(5カ年の予算等)を作成する必要があった際は何度徹夜したかわかりません。みんなが仕事へ向かう朝の地下鉄で帰り、グラグラと眠って隣の人に肩すかしされたことは今でも忘れません。余談ですがその日の集合時間は確か15時でした。

技術部門でトラブルが発生し納期が迫った際も盛大に巻き込まれ、発注者(民間)の事務所に段ボールに放り込んだデスクトップPCを持って乗り込み、道路管理の仕事をこれまた徹夜続きでやり遂げたこともあります。今思うと、よく頑張った！自分！！二度とできません！！

このあと退職された上司にかけていただいた「あなたは国交省じゃなくてネクスコだよ。戦友なんだよ。」という言葉が深く心に残っています。サポーターではなくパートナーだという意味だそうで、そんな風に思っていただけたことはとてもありがたく、頑張った甲斐がありました。

## ～ 推しごとは大事 ～

デスクワーク主体の事務職は、土日にはじける必要があります。私だけかもしれませんが……

私は自他ともに認める「わりと熱狂的ベガルタ仙台サポーター」です。もちろん年間チケットを購入してスタジアムで狂喜乱舞していますが、実は一番お金を使っているのは音楽のライブ鑑賞です。ジャンルは問わず数十人の喫茶店から、7万人のスタジアムまで、どこへでも出かけて行きます。サッカー観戦も音楽鑑賞も会場の一体感と臨場感がたまらなく、私の生活に欠かせないものとなりました。



推し2：冷麺に興味になかったのに大感動した味！！  
食道園@川崎市

### ～ 思わぬご褒美？ ～

数々の試練を乗り越えた1社目を退職し、再び暗黒の就職活動が始まりました。採用面接を行なう側だった頃は、受ける側には二度とまわるものかと心に決めていたのに……「社会を縁の下から力強く支える建設コンサルタント業界に魅力を感じている」と書いた履歴書は何枚になるのでしょうか。直接雇用を諦め、派遣会社から現在の会社を紹介してもらいました。

面接が決まった段階で教えていただいた会社名「ドーコン」それは何年も前に、こんな素晴らしいスタジアム（ユアテックスタジアム仙台）を設計したのは誰なんだろうと調べたときに目にして「建設コンサルタント会社が設計したんだ!？」と驚いた会社名でした。現在も監理業務等を契約する際は、仕様書に添付されているスタジアムの図面を見て1人ニヤついております。

前職は発注者支援業務がメインだったため、何を作っているか明確な会社で働くという理想も叶いましたし、「水曜どうでしょう」推しの私が北海道の会社に就職したことで、友人たちもザワつきました。

そして上司に恵まれ社員にさせていただくことができました。絶望していた私に居場所を与えてくださったことは感謝してもしきれません。

### ～ がんばれ事務職 ～

「若手」「女性技術者」にスポットライトが当たる中、地味～に日々の業務をこなしています。単調作業のイメージが強いですが、結構マルチタスクです。同時多発で日々翻弄されております。

人事考課のための目標設定が難しい、AIに仕事を奪われる日が近いのではと不安になるのは事務職あるあるでしょうか。現段階では、まだまだAIが不得意な「目配り・気配り」「状況を判断し臨機応変に対応すること」「知識や経験を元に先を読んで行動すること」等、人間による柔軟な対応の必要性が失われることなく共存していけるよう願っています。

スポーツの世界ではよく「共闘」という言葉を耳にします。スタメンが技術職・営業職の第一線だとしたら、ベンチ入りせずに支えることも大切ですが、メンバー入りして共に闘い、たまにはゴールを決める事務職がたくさんいてほしいですし、自分もそうなれるよう精進していこうと思います。

長々とくだらない自伝になってしまいました……ここまで読んでくださった事務職の方々、携わっている仕事に誇りを持ってお互い頑張っていきましょう。



推し3：清々しさが別格だった寒川神社（神奈川県）

## これまでの振り返りと今後の目標

三井共同建設コンサルタント株式会社 山 川 喜 輝

### 1. はじめに

社会人となり3年が過ぎようとしています。私の職場は仙台にあり、望んだ環境で仕事をさせていただいています。入社当時から上司、先輩方にご指導をいただき、技術面のほか、人間としても成長を感じる毎日です。

私見とはなりますが、これまでの振り返りと今後の目標について述べさせていただきます。

### 2. これまでの振り返り

社会人1年目は、作業ベースの仕事が多く、「言われたことをやるのが1年目」これが基本でした。ただ、知識も経験も無く、「何がわからないかがわからない」を経験した年でもありました。一つ上の先輩はサクサクと仕事をし、来年こうなれるだろうかと不安が積もったことを覚えています。しかし一方で、上司、先輩、同期など身の回りの環境に恵まれ、社会人として成長できる機会が多くありました。

社会人2年目は、仕事と環境にも多少慣れ、会議で上司が言っていることがわかるようになりました。仕事は依然作業ベースが多かったですが、先輩方の助言を受け、業務工程を把握しながら作業するなど、自分なりの課題と目標を持つように心がけていました。

また、プライベートにも余裕ができ、デスクワークでたるんだ体を戻すためにジムを契約したり、新しい趣味（キャンプ）を見つれたり充実した日々を送ることができました。

そして社会人3年目、業務を数本メインで持ち、責任感を持って仕事をする意識が芽生えました。仕事面では、特に自分自身の成長を感じる年となりました。一方で、この年から後輩ができ、教えることの難しさや自身の未熟さを知り、今まで教えていただいた上司、先輩の凄さを改めて認識する機会となりました。まだまだ背中はずいぶん遠いですが、その背中に追いつけるようにと明確な目標を見つけた1年となりました。

### 3. 今後の目標

これまでの振り返りを経て、今後の目標は技術力の向上です。向上といっても様々で、今まで得た知識や経験を咀嚼し、自分の土台とすることも向上と言えると思います。3年目で後輩ができ、わかっている気がしていたことが実はわかっておらず、自分の未熟さを痛感する瞬間が多々ありました。先に先に手を伸ばすことも大切ですが、まずは今まで得てきたものを確実に自分のものにする、これも大切なことだと実感しました。若手である長所を活かし、時間をかけてベースを固める意識を持ち着実な一歩を進んでまいります。そして、新しい知識や経験を得たときに、締め固まった土台が役に立つ、そういった成長をしていきたいと思っています。

また、業務的な目標の他に今年は社内レクリエーションを活発にしたいと考えています。コロナが落ち着き、徐々に活動が増えてきました。去年は花見や芋煮など季節に沿ったイベントを主催してきましたが、今年も引き続き交流を深める活動をしたいと考えています。

### 4. おわりに

これまでの振り返りと今後の目標を綴り、私の中で感じていたことがクリアになりました。いただいたこの貴重な機会を活かし、自分自身がたてた目標を達成し、また次の目標に向かって研鑽してまいります。



▲東北支社で開催した花見

## 仙台での新しい日常とキャリア

株式会社長大 鶴岡 央

### 1. はじめに

私は2018年に新卒で入社し、橋梁設計の技術者として東京で勤務しておりました。2023年10月に仙台支社に異動し、7年目の節目を迎えました。異動を機に、これまでの経験を振り返り、新たな環境で感じたことを記したいと思います。

### 2. 橋梁設計を通じて感じた技術と社会的意義

入社以来、橋梁設計に携わり、要求される技術の高さに圧倒されながらも、経験豊富な先輩方の指導と協力を得て、技術を磨いてきました。

橋梁設計は単なる構造物の設計にとどまらず、地域の生活や経済発展に直結していると感じています。特に、災害復旧において橋梁の架け替えを通じて、地域の交通が回復し、地域住民の日常生活に貢献できたことを喜びに感じています。こうした経験から、専門的な技術に加え、社会的な配慮や環境への意識が必要不可欠であり、広い視野を持つことが重要と考え、設計に取り組んできました。

### 3. 仙台での新しい環境と生活の楽しみ

仙台への異動は私にとって大きな変化であり、東京とは異なる地域特性を理解し、それに応じた設計を行う必要があると感じています。

仙台での勤務を通じて、一層地域に根ざした技術の提供が求められると感じています。その中で、自分の技術をどう活かし、貢献できるかを考える機会が増えました。特に積雪地帯特有の配慮事項など、東京ではあまり経験できなかった課題に取り組むことで、新たなスキルと視野を広げることができると期待しています。

また、個人的な面でも仙台での生活を楽しまれています。例えば、東北楽天ゴールデンイーグルスの試合観戦や仙台89ERSのバスケットボールの試合観戦を楽しむことで、新たな趣味が増えました。特に楽天イーグルスの試合は、スタジアムの熱気とファンの一体感が素晴らしく、レフトスタンドからの応援が週末の楽しみになっています。さらに、冬にはスキーにも挑戦

しました。東北地方には豊富なスキーリゾートがあり、自然の中でリフレッシュする絶好の機会となっています。仕事とプライベートのバランスを保ちながら、新たな趣味を楽しむことでリフレッシュし、仕事に対するモチベーションも高まっています。

### 4. おわりに

私たち若手技術者にとって、今後重要なのは単なる技術力の向上にとどまらず、その技術をいかに社会の役に立てるかという点です。デジタルトランスフォーメーション（DX）や持続可能な開発目標（SDGs）の実現など、新しいものを取り入れる姿勢が求められます。最新技術を活用し、より安全で効率的な橋梁設計を実現していきたいと思います。また、今後は、これまでの経験と知識を次世代の技術者に伝えることで、未来のインフラ構築に寄与していきたいと考えています。



楽天モバイルパーク宮城（楽天イーグルス）



カメイアリーナ仙台（仙台89ERS）

## 令和6年度講演会報告

広報委員

株式会社建設技術研究所 大場 秀行

### 1. はじめに

令和6年11月25日（月）トークネットホール仙台（仙台市民会館）小ホールにおいて、恒例の建コン東北支部講演会が開催されました。今回は「スポーツを核としたまちづくり」と題して、元東北楽天ゴールデンイーグルスの銀次氏、元ベガルタ仙台の梁勇基氏、富田晋伍氏、八戸駅前地区でアリーナを中心としたまちづくりを实践されている八戸市の都市整備部次長である石橋敏行氏を招いての講演会でした。

### 2. 講演会の様子

講演会は13時20分に定刻通り上野広報副委員長の司会で幕を開けました。最初に菅原支部長の主催者挨拶、次いで東北地方整備局の宮本企画部長より来賓のご挨拶として、国土強



司会者上野副委員長と会場の様子

化5ヶ年加速化対策予算の適正な執行と震災復興事業がほぼ完成に近づいているものの、東北は人口減少と高齢化がどの地域よりも進行が速いため先駆けた対策を進める必要があること、社会資本整備にはハードが大事であるがソフトがそれ以上に重要であり、それを担う建設コンサルタントへの期待度が高いとのお言葉を頂きました。



主催者挨拶をされる菅原支部長



来賓挨拶をされる宮本企画部長

続いて「プロサッカーリーグのまちづくり」と題して梁勇基氏から講演が開始されました。梁氏は、2004年阪南大学からベガルタ仙台へ入団され2020年から2年間サガン鳥栖へ移籍されましたが、2022年にベガルタ仙台へ戻り2023年の引退まで18年間をベガルタ仙台で背番号10番を背負いミッドフィールダーとして活躍されたベガルタ仙台の中心選手でした。2024年の引退後はベガルタ仙台クラブコーディネーターとしてスポーツの普及による地域貢献を推進する役割を担っています。

梁氏からは、最近は遊具が危険であるとして公園から遊具が減少し、ボール遊びの可能な公園も限られている状況下で、子供の外遊びの場の減少とスマホの普及とが相まったことで子供たちの運動能力の低下を危惧している。そのためにも未来を担う子供たちへサッカーを指導することの他、子供たちを指導する先生方へもサッカーの指導法を伝授するなど、子供たちの健全な育成を目的とした活動とこれを通じた地域や街の活性化を目指しているとの話をお聞きしました。



スポーツを通じたまちづくりについて話される梁勇基氏

次いで富田晋伍氏が講演されました。富田氏は、2005年に東京ヴェルディユースからベガルタ仙台へ入団され、2022年の引退まで18年間ミッドフィールダーとして活躍された、ボール奪取力が日本一と言われた名選手でした。引退後は、ベガルタ仙台のクラブコミュニケーターに就任しクラブと地域の橋渡し役として活躍されています。

富田氏からは、行政+企業等+ベガルタ仙台の3者以上の協働者による課題解決のための活動を推進しているとの事で、七ヶ宿町+七ヶ宿まちづくり株式会社+ベガルタ仙台の協働で空家を宿泊できる施設としてリフォームし、その周辺空地も畑地として活用するなど地域活性化を図っている他、大郷町とは明星高校とベガルタ仙台で味噌カレーを開発し売り出すなど地域活性化に貢献する活動を行っているとのことでした。



3者協働の地域活動について話される富田晋伍氏

お二人ともベガルタ仙台という人気スポーツクラブを活用した地域活動により、まちづくりを支える活動を行っていることが伝わる講演内容でした。

次は「アリーナを核としたまちづくり」と題して八戸市都市整備部次長の石橋敏行氏の講演です。石橋氏は、1986年に八戸高専を卒業後八戸市へ入庁、30年以上様々な部署で経験を積み、令和2年に市街地整備課長へ着任後、八戸駅西地区のエリアマネジメントに係わることになったとのことでした。

八戸駅西地区土地区画整理事業は、東北新幹線の北奥羽地域の玄関口となることに鑑み、八戸市の顔となるまちづくりを行うことを目的に平成9年に事業着手され、その後幾度かの計画変更を行い今日に至っています。

石橋氏からは、市内のスケート施設の老朽化によりホームリンクとしていたアイスホッケーチーム（東北フリースタイル）が困っている中、クロススポーツマーケティング（株）による新たなアリーナ整備の話が挙がり、土地区画整理事業において整備に関する交渉を行いアリーナ（フラット八戸）が整備された。この施設を最大限に生かした地域活性化とまちづくりを図るため、まちづくりアドバイザーの力も借りて地域の「盛り上がり隊」などの活動も支援しつつ市民が楽しめる地域となるよう様々なイベント活動を行っているとお聞きしました。



まちづくりについて話される八戸市都市整備部次長 石橋敏行氏

大トリは、元東北楽天ゴールデンイーグルスの銀次氏で「プロ野球人としてのまちづくり」と題して講演頂きました。銀次氏は、岩手県普代村出身で2005年に盛岡中央高校からドラフト3巡目で指名され入団、2006～2023年の18年間第一線の選手として活躍されました。入団直後は5年程2軍生活を続けていましたが、2011年からは1軍での出場回数も増え2013年には打率.317をマークし日本シリーズの優勝に大きく貢献しています。2014年にはリーグ2位の打率.327をマークし、2017年には一塁手としてゴールデングラブ賞、ベストナインにも選出され、2019年には楽天生え抜き選手では初となる通算1000本安打を記録しています。同年10月のFA権獲得時は「もっと東北を熱くしたい」との思いから楽天への残留を決め、2023年の引退まで楽天の選手として活躍されました。引退後は楽天のアンバサダーに就任し、野球を通じた地域

活動も行っています。

銀次氏からは、一時は野球を止めようと思った時もあったそうですが、東日本大震災での東北沿岸部の惨状や被災された方々に接するうちに自分たちが野球で希望を与えなければとの思いで野球を続けられたとの話を聞きました。また、2023年10月球団より戦力外を告げられ他球団への移籍も考えたそうですが、東北各地から球団に残って欲しいとの要望が多かったことから11月22日に現役を引退して楽天の「アンバサダー」に就任し、その後東北地方の野球振興を担当しているそうです。



熱弁される東北楽天ゴールデンイーグルス 銀次氏

アンバサダーの仕事は、球団営業活動、球団地域密着活動、チームに関する総合的な助言、海外視察だそうです。球団地域密着活動では、子供たちへの野球教室活動、お祭りへの参加等で、野球を通じて地域に元気を与える様な活動をしているとのことでした。現役時代は被災地の人たちへ元気を届けたいとの思いで魂を込めて打席立っていたそうですが、引退後の今もその気持ちで地域活動をしているそうです。

最近は公園で野球が出来なくなっており、子供たちが野球をする場が減っていると感じる。子供たちにとってスポーツが出来る環境は、スポーツを育て子供の夢を育て、結果として街も発展すると思うのでスポーツがもっと身近で気軽に出来ると思うし、スポーツが持つ魅力が街を活気づけ、人々をつなぎ、結果としてまちづくりに繋がっていると思うとおっしゃっていました。

いずれ地元球団が活躍している姿は地元の方々に勇気を与えてくれますし、活躍された選手は、引退後も地域活動に係わってくると盛り上がり、街を明るく照らす役割を果たしてくれると思います。

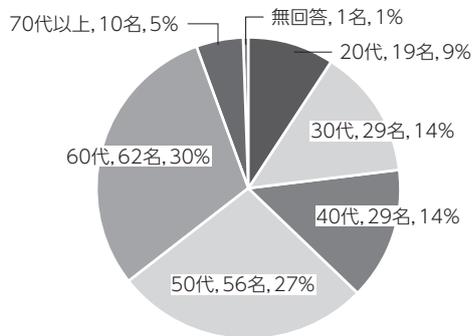
4名の講演が終わり、最後に菊池広報委員長の閉会挨拶で幕を閉じました。昨年に続きスポーツに関わる有名人を招いての講演会でしたが、今年も成功裏に終えることができ、広報委員一同安堵したところでした。



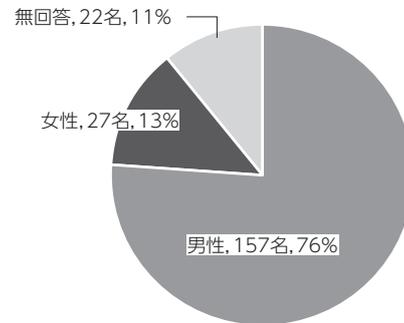
閉会挨拶をされる菊池委員長

3. 講演会参加者からのアンケート

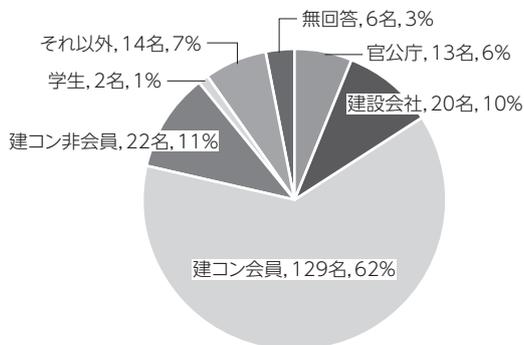
年齢構成



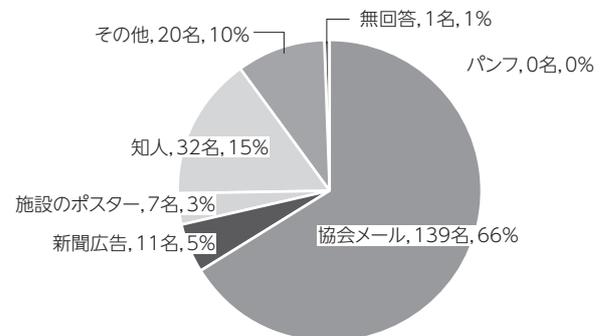
性別



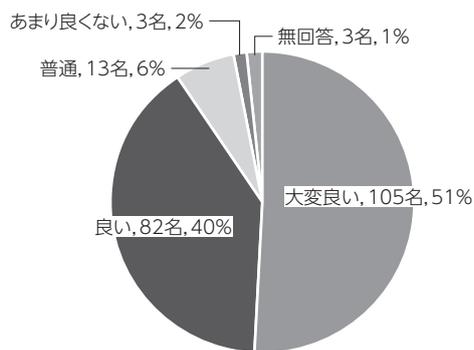
勤務先



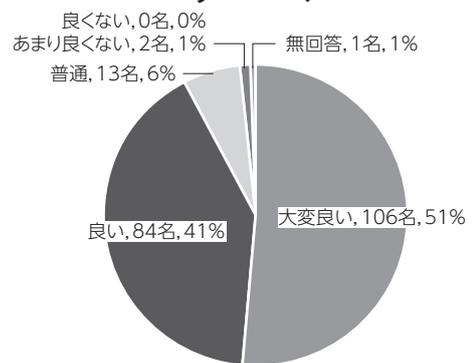
来場のきっかけ



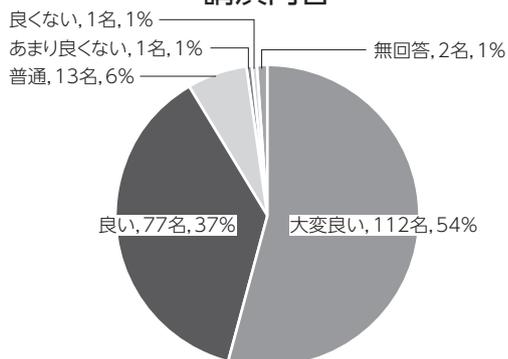
全体構成



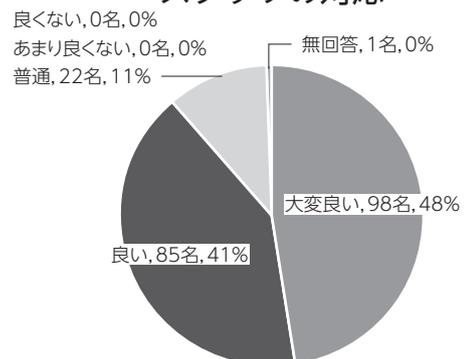
テーマ



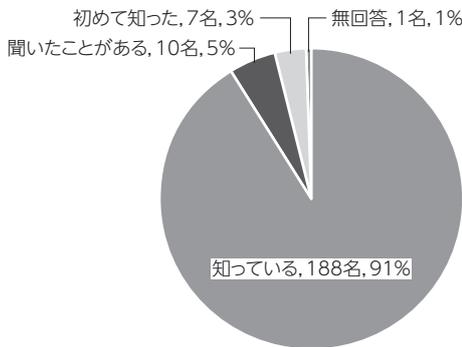
講演内容



スタッフの対応



### 建コン業界について



#### 自由意見

- ・環境をテーマにしたものを取り上げて頂きたい。
- ・プロスポーツチームがどの様にまちづくりに携わっているのか、良く分かりました。
- ・スポーツ選手の講演で参考になる話がなかった。まちづくりのテーマと関係ない話や内容が薄い。
- ・元プロスポーツ選手の方の講演は、司会の方とのインタビュー形式の方が良いと感じました。
- ・銀次選手の講演は心が熱くなりました。
- ・スポーツをテーマにした講演で良かった。講演だけでなく、ディスカッション形式も聞いてみたいと思った（野球、サッカー、バスケそれぞれの目線のまちづくり、スタジアムづくりとか）。
- ・もう少し踏み込んだまちづくり策などを期待します。
- ・もう少し時間が短くても良かった。
- ・スポーツを核としたまちづくりということで、専門家だけでなくアスリートなど、日常聞くことが出来ない方々のとても興味深いお話しが聴講でき良かったです。このような普段の講習会とかで聞けないような講演会が良いと思います。
- ・楽しかったですが、もう少し土木によった講演でも良かったと思います。講演者に建設コンサルタント業界を知ってもらう機会も必要だと思います。最初のベガルタの講演は短くて残念でした。
- ・ベガルタの2選手の講演についてはスポーツ選手でありながら地域を盛り上げる側になった苦勞が分かりました。東北支部とのことですので、東北らしい内容での講演を期待します。

- ・サッカー、野球の話の両方聞いたのが良かった。双方の方がステージに一緒にトークイベントも見なかった。
- ・講演者の人柄が出て良かったが、もっと食いつきができる話をされたら良い。
- ・建設コンサルや自治体の講演以外に今回のような他分野の講演はとても良いと考えます。
- ・司会の方の進行が良かった。質問を自らするなどスムーズな運営となった。
- ・スポーツ選手の講演は続けて欲しい。
- ・毎年楽しみにしています。
- ・銀次の講演内容が大変良かった。
- ・東北を盛り上げる企画を来年もお願いします。
- ・講師人選が最高です。
- ・スポーツエンターテイメントと地域活性化については今後も着目して欲しい。
- ・少子高齢化の進行に於ける地域づくりのあり方について伺いたい。
- ・貴重なお話を聞くことができ良かった。4名とも視点が違い、話を聞いていて面白かった。
- ・質疑応答の時間をもう少しとって頂きたかった。
- ・次回も著名人の講演を聴きたい。

## 令和6年度 構造専門委員会 現場見学会に参加して

セントラルコンサルタント株式会社 空谷謙吾、内藤和彦

### 1. 現場概要

令和6年8月7日（水）に、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の宮沢橋上部工架設工事の現場見学会に参加した。

宮沢橋は、広瀬川に架かる橋長145.1mの鋼2径間連続箱桁橋である。現場では、P1-A2間のクレーンバント工法による架設が終わり、A1-P1間において送出し工法による桁架設中であった。



[写真：送出し工法による桁架設の様子]

### 2. 見学会の感想

宮沢橋の送出し架設は、施工期間及び限られた施工ヤードを勘案して河川流水部上の桁架設（スパン70m程度）を行うことが特徴として挙げられる。

架橋位置を交差する河川断面は、A1-P1間は流水部、P1-A2間は高水敷部である。上部工架設工事の現場作業着手が非出水期であったため、高水敷上にクレーン架設が可能であるP1-A2間の桁架設から行い、出水期に入りP1-A1間の送出し架設を行う工程であった。

送出し架設の施工ヤードを確保するため、先行架設したP1-A2間の主桁上に送出し装置を設置し、A1-P1間の送出しヤードとする等の工夫も見られた。

中でも我々が最も注目したのが、地域住民への配慮である。左岸河川敷の遊歩道を残したまま施工しているため、安全対策として、足場に板張防護を設置していた。また、現場を見晴らせる場所には騒音・振動計を取り付けており、工事概要や各工程の写真を提示した休憩所が設けられていた。市街地での工事という特性上、散歩がてら施工現場を市民が見学するため、地域理解の促進に役立っていると感じた。

その他、見学会ではARによる橋のCGモデルの現地への表示や、VRによる架設動画の視聴を体験することができ、AR・VR技術の例として大変参考になった。

### 3. おわりに

見学会の後は、懇親会が開催され、参加した建設コンサルタント各社の技術者と様々な意見交換や親睦を深めることができ、大変有意義な一日であった。

最後に、現場関係者の皆様をはじめ、現場見学会を企画して下さった建設コンサルタント協会東北支部の皆様にご心よりお礼申し上げます。



[写真：集合写真]

## 令和6年度 構造専門委員会 現場見学会に参加して

株式会社復建技術コンサルタント 武田 洸

### 1. はじめに

令和6年8月7日（水）に、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の宮沢橋上部工架設工事の現場見学会に参加し、送出し架設途中の現場を見ることができた。普段の業務で、上部工架設計画の検討を行うが、なかなかイメージや規模感がつかめていなかったため、この現場見学会は貴重な経験となった。

### 2. 宮沢橋の概要

宮沢橋は、宮城県仙台市に位置し、若林区河原町方面から国道286号に伸びる橋梁である。広瀬川に架かる橋の1つで、現在、架け替え工事を実施している。都市計画道路「南小泉茂庭線（宮沢橋工区）」において、現在の宮沢橋の上流側に新設される。

#### 【橋梁概要】

橋梁形式：鋼2径間連続箱桁橋

橋 長：145m

総 幅 員：25.8m

架設工法：A1-P1 送出し架設工法

P1-A2 クレーンベント工法

### 3. 現場見学会の感想

宮沢橋上部工架設工事における特色は2つ挙げられる。

1つ目は、クレーンベント工法と送出し架設工法を併用した施工計画となっていることである。A2側の周囲には住宅地が並び、A1-P1間には広瀬川が流れるため、作業ヤードが限定される。限定された作業ヤードが課題となる中で、P1-A2間をクレーンベントによって先行架設し、架設されたP1-A2間を送出し架設の作業ヤードとして利用する点に工夫を感じた。

2つ目は、近隣住民との良好な関係性の構築、円滑な合意形成に重きを置いていることである。見学の中でVRやMR体験を通じて、完成時の宮沢橋や施工ステップが可視化されたことで、施工時や施工後のイメージを容易に理解することができた。VRやMR技術の活用により、工事に対する理解度向上を促すこと

で、近隣住民との良好な関係の構築および合意形成がなされていると感じた。

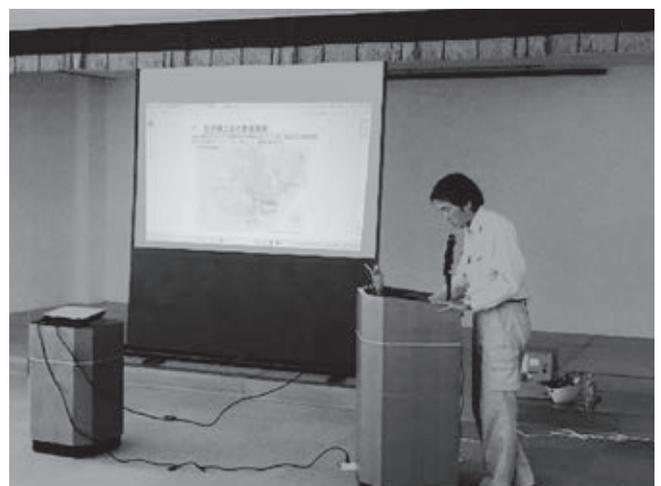


(写真-1：VR体験の様子)

### 4. おわりに

工事概要の説明の際には、仙台市職員の方よりご説明いただき、整備目的などを理解し、現場見学会に参加できた。

最後に、今回の現場見学会を快く受け入れてくださいました管理・発注者の皆様、企画していただきました建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様にご心よりお礼申し上げます。



(写真-2：工事概要の説明の様子)

## 令和6年度 河川・環境専門委員会 現場研修会に参加して

八千代エンジニアリング株式会社 北村 諒 馬

### 1. はじめに

令和6年10月19日、建設コンサルタンツ協会東北支部が主催する河川・環境現場見学会に参加しました。

見学地は秋田県東成瀬村に建設中の成瀬ダムで、完成すれば日本最大級の台形CSGダムとなります。日本において新規ダム開発事業は年々減少傾向にあり、今回のような建設途中のダム現場に入って説明を受ける機会は貴重な体験でした。

### 2. 成瀬ダムについて

成瀬ダムは、雄物川水系の度重なる洪水被害、農業用水の不足、生活用水の枯渇などを受けて計画されました。令和元年には、かんがい用水の取得において、許可取水量に対して上流では3割程度にとどまる箇所や、上水道では節水の広報の実施や給水車の準備をした箇所もあり、早期完成が望まれています。

### 3. 見学内容

はじめに、左岸側に位置する原石山展望台から工事現場全体を視察しました。原石山で採掘された砂レキが貯水池予定地の中央にあるCSG・コンクリート製造設備までダンプトラックで運搬され、材料粉碎・混合されてCSGが製造される過程の解説を受けました。また、展望台には大きなモニターが設置されており、発破の迫力のある映像が視聴できました。

次に、右岸側に建設中の管理庁舎屋上にある天端見学台から堤体打設工事の様子を視察しました。堤体打設には自動化システムが導入され、ブルドーザー、振動ローラー、ダンプトラックの3機種14台の建設機械を、400km離れた神奈川県から3名のITパイロットが管制しています。見学時には振動ローラーのみ稼働しており、1名が管制していましたが、最初はすべて人が操縦していると思っていたので、建設現場での作業効率化や省人化の進歩に驚愕しました。

最後に、ダム下流側にあるDX-LABOでは、ダム建設の目的や建設過程を映像やパネル展示から学ぶことができました。タブレットを借りてパネル展示やダム

堤体を写すと、ARによる映像を確認でき、楽しみながら学べる非常に良い技術だと実感しました。

### 4. おわりに

令和6年度河川・環境現場見学会に参加して、成瀬ダムが建設される背景や台形CSGダムの建設方法について深く学ぶことができました。

最後に、このような機会を設けていただいた河川専門委員会・環境専門委員会の皆様と、現場案内をいただいた工事関係各位に心から感謝申し上げます。



写真1 成瀬ダム現場



写真2 2班集体写真

## 令和6年度 河川・環境専門委員会 現場研修会に参加して

セントラルコンサルタント株式会社 遠藤達也

### 1. はじめに

現場研修会では、秋田県の東成瀬村に位置する成瀬ダム（着工H30年～完成予定R8年）を見学し、完成間近のダムの施工現場を見る貴重な機会であった。

### 2. 成瀬ダム

成瀬ダムは、雄物川水系成瀬川に建設される多目的ダムであり、下流の洪水被害の軽減や農業用水の慢性的な水不足解消、生活用水の枯渇改善等を目的に建設が進められている。

原石山展望台、右岸天端見学台、DX-LABOの順で見学し、ダム概要や自動化施工、AR活用等の説明を受けた。

成瀬ダムは環境負荷と工事期間・コスト削減の観点から台形CSGダム形式を採用しており、建設現場周辺で発破を行い、石や砂れきとセメント水を混合して作るCSGを用いて造られた新しいダム形式のダムである。

また、CSG打設では、重機が自動化施工を実施しており、重機に操縦者が乗車せずとも、機械が自動で判断し、早くて安全に工事を進めることができると説明を受けた。



写真① 無人重機



写真② 成瀬ダム全景（原石山展望台）

「DX-LABO」では、専用のタブレット端末を操作し、施設内にあるジオラマやパネルに端末をかざすと、ARを通じて最先端の施工技術などを立体的に体感することができ、成瀬ダムの完成予想図やダムの役割等について、映像を通じて楽しく学ぶことができた。また、展望デッキでは、堤体を間近に見ることができ、工事中の堤体にタブレットをかざすことで、実際の位置に成瀬ダムの完成形がARで視認でき、迫力があり印象的だった。



写真③ AR実施状況写真

### 3. おわりに

令和6年度「河川・環境現場研修会」に参加させていただき、最先端のICTを用いた施工技術を数多く採用している成瀬ダムを間近で見学することで、自分自身の技術研鑽の良い機会になった。

最後になりますが、見学会を主催して頂いた建設コンサルタント協会、現場で案内および説明していただいた国土交通省東北地方整備局および成瀬ダム工事事務所の皆様に対し、心より感謝申し上げます。



写真④ 全体集合写真

## 令和6年度 道路・地盤・インフラメンテナンス 現場研修会に参加して

株式会社片平新日本技研 山口 拓海

### 1. はじめに

この度、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加し、宮城県栗原市の東北自動車道（仮称）栗原IC事業の施工現場、大崎市の一般国道108号古川東バイパス事業における境野宮稲葉地区道路改良工事の施工現場を見学させていただきました。

私は2021年に株式会社片平新日本技研に入社致しまして、2024年7月まで中国支店（広島市）技術部として、2024年8月から現在に至るまで東北支店技術部として主に橋梁設計業務に携わってきました。最近まで中国支店に在籍していたので、中国地方の現場見学会等に参加する事はありましたが、東北支店に異動してからは参加できておらず、現場見学会に参加するのは今回が初めてでした。東北地方の工事の現場を見学できるとのことで、今後の設計に活かせる知識を身に付けたいと思い参加させていただきました。

今回の現場見学会に参加して学んだこと、今後の設計に活かしていきたいと感じたことを述べさせていただきます。



写真1 撤去済みの上部工の見学

### 2. 栗原IC現場の見学

栗原IC事業の現場は、追加IC整備に伴い既設の木戸2号橋および後沢橋が撤去計画されており、今回の現地視察時には木戸2号橋が撤去済みとなっていました。撤去された上部工は一時的にヤードに搬出されており、間近で切断されたPC中空床版の断面を見ることができました。

上部工撤去は中央径間部と側径間部、斜材と分けて搬出する計画であり、夜間通行規制を行い2日間で撤去を完了しなければならないため、作業工程を守る確実な施工が求められた現場であることを現場の施工管理者より説明を受けました。中央径間部は上り線と下り線で切断され60mmのワイヤー4本で桁を吊り、多軸台車に積み込まれヤードへ搬出する計画となっており、作業時間が限られる中でブロックごとに分ける段階的な施工としていることが確認できました。

側径間部および斜材においても同様にワイヤーで吊りながら切断する計画となっており、特に斜材には鉄筋径D32mmの鉄筋が使用されていたとのことで、切断するのに時間を要したが、仮受バントで部材を支えながら効率的な作業計画により撤去作業を終えられたと説明を受けました。

他にも、上り線における本線合流および本線出口から料金所までの間に設けられるEランプ橋の新設工事も進められている状況で、橋台の場所打ち杭施工が完了している様子を確認できました。また、Eランプ橋およびその周辺の補強土壁計画位置においては中層混合処理工法（パワーブレンダー工法）による地盤改良工事が行われており、実際に工事の様子を見ることができました。計画位置の地盤条件としては、調査ボーリング結果より深度4m～11m程度の間に被圧滞水層が確認されていたとのことで、場所打ち杭施工および地盤改良時には被圧地下水による影響を受けない高さで計画を行ったと説明を受けました。

今回の栗原IC事業の現場を見学して感じたことは、コンサルタントとして施工計画段階から現場状況を詳細に把握することの重要性を改めて感じました。今回

のEランプ橋施工計画のように地盤条件などの設計条件を十分に確認し、適切な工法によって計画することが必要であると強く感じました。

今後コンサルタントとして施工時の課題を様々な観点から想定し、最適な計画を立案していきたいと思えます。



写真2 現場見学の様子

### 3. 古川東バイパス道路改良工事の見学

古川東バイパス境野宮地区における道路改良工事現場の見学では、実際に本線の整備が進められている様子と道路改良工事に伴う重力式擁壁の型枠組立の様子を見学することができました。

今回見学させて頂いた道路改良工事区間の特徴としては、施工時に交差する市道の迂回路の切り替えが多く施工ステップが複雑になるという点でした。都市計画決定変更によって本線の縦断が下がったことにより、各従道路との交差部において、仮切廻し路（敷き鉄板養生）を整備する必要があり、当初の計画よりも施工ステップが増えたと現場の施工管理者から説明を受けました。計画が変わると施工する現場にも与える影響は大きく、設計しているだけでは分からない現場での工夫や対応について学ぶことができました。

また、発注者とコンサルタントのみの打合せによって作成された施工計画では、実際に現場を良く知る施

工者側からすると計画に見直しが必要である場合が多く、それにより施工者側での対応が増えて大変であるという悩みがあることも伺いました。やはり、施工側の負担をできるだけ少なくするように、コンサルタントとしても現場をよく把握して計画を行う必要があると改めて感じました。また、設計する側と施工する側の両者の連携を深め、お互いの情報をより共有していかなければならないという建設業界全体の課題について考える良い機会となりました。



写真3 重力式擁壁の型枠組立の様子

### 4. 終わりに

今回の現場見学会に参加して、現場ごとにそれぞれ違った課題があり、その対応方法について多く学ぶことができました。また、移動中に行われた座学ではインフラメンテナンスの概要や災害対応について理解を深めることができ、今後の設計にも活かしていきたいと思えます。

今回の現場見学会を通して参加者の皆さんと意見交換を行い、交流できたということも今後に向けて大きな収穫となりました。

最後に、今回の現場見学会を企画していただいた委員会の皆様、現場担当者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 令和6年度 建コン東北支部意見交換会

対外活動副委員長 湯澤 洋一郎

建設コンサルタンツ協会の重点活動としております発注者との意見交換会は、建設コンサルタンツ協会本部の要望と提案事項の他、支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査したものに加えて、役員会に諮り議題を定め、令和6年10月10日の秋田県との意見交換会を皮切りに書面開催となった山形県を含めて進め、令和6年11月19日の岩手県で終了しました。

### 1. 概要

各発注者との意見交換会の開催時期及び議題の概要は表1のとおりです。

### 2. 意見交換会における議題(協会からの要望と提案)

はじめに 魅力ある業界を目指して

- I. 担い手確保・育成のための環境整備
- II. 技術力による選定
- III. 品質の確保・向上
- IV. 災害対応に向けた環境整備
- V. DX推進の環境整備
- VI. その他(業務量制限の判断基準について、新たなインフラ活用の推進：東北地方整備局)

### 3. 意見交換会で進捗が図られた内容

今年度、建コン東北支部として進捗が図られた内容は以下のとおりと考えます。

①国交省東北地方整備局に要望した以下の項目は、意見交換会時に前向きな回答が示されました。

- ・複数年対象業務における所謂スライド条項の適用。
- ・増工した新規工種を当初落札率の適用除外とする。
- ・更なる平準化と適切な履行期間確保
- ・計画系プロポーザルにおいて技術者単価引き上げに応じた参考業務規模の拡大。
- ・拡大型プロポーザル方式において高度な技術提案書を作成するための作成期間の確保・延長。

- ・難易度により総合評価落札方式1：2、1：3の採用。
- ・地域コンサルの拡大・育成に向けたチャレンジ型、施行能力評価方式等の継続と業務規模拡大。
- ・実施方針の評価項目毎の評価を記載の入札調書公開。
- ・特記仕様書に技術提案履行不要に関する項目の追記。
- ・業務成績評定点、プロポ方式の特定経緯のHP公開。

②自治体からは以下の前向きな回答が得られました。

- 青森県：早期のJV方式の導入。総合評価落札方式の技術者成績評定評価を3→5段階へ細分化。
- 岩手県：斜め象限図の導入とプロポーザル方式、総号評価簡易I型の採用。災害協定書の内容修正
- 秋田県：若手・女性技術者の表彰制度の創設。プロポーザル・総合評価落札方式の適用拡大。
- 宮城県：「技術提案チャレンジ型」の試行拡大。調査基準価格の引き上げ。テレワーク環境整備。
- 山形県：プロポーザル・総合評価落札方式の発注拡大。設計JVによる地域コンサルの活用と育成。
- 福島県：3月末納期集中の分散、平準化。電子入札の適用拡大、電子契約システムの導入検討。
- 仙台市：総合評価落札方式の試行導入。災害時応援協定の締結検討。年度末の納期集中の是正。

③災害協定書の改定は、福島県とは令和6年9月30日付で新協定締結となり、残る岩手県とは早期の再締結に向けて実務者による修正協議を継続いたします。

# 意見交換会

表-1 意見交換会の開催時期及び議題の概要

発注機関／開催概要	議題等
<b>秋田県</b> 開催日 R6年10月10日(木) 出席者 川辺建設部長 他7名 菅原支部長 他21名	I 災害に強い県土づくりにつながる予算確保、年度繰越業務の新年度技術者単価スライド適用、早期発注や年度繰越発注による納期の平準化・標準履行期間の確保、「ウィークリースタンス」の継続的な推進、若手・女性技術者の活用・育成(加点、表彰制度の新設)を要望 II プロポーザル方式の活用、総合評価落札方式の適用拡大(くじ引き抑制に向け年度末発注での採用、国の実績も評価対象に追加、配置技術者手持ち業務数の評価の緩和、表彰実績の加点評価、変更増の新規工種に落札率を適用しない、予定価格の事後評価、地域コンサルタルの活用・育成に資するJV業務の拡大、地域要件付き入札参加要件緩和、市町村への適切な発注方式の指導、を要望。 III 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み、工事調整会議の開催継続と費用計上、実務者会議の継続(新技術や特殊な業務の新歩掛り協議)を要望 IV 迅速かつ適切な災害対応と改正労働基準法遵守との両立、速やかで柔軟な業務一時中止措置と工期延長による履行期間確保、災害申請作業の合理化、実作業に見合った積算歩掛りの適用と費用精算を要望 V 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進:業務効率化の推進、設計マニュアル等技術基準類の電子化Web公表、BIM/CIM有効事例を受発注者で共有する講習会実施を要望
<b>山形県</b> 開催日 R6年10月17日(木) 書面開催 (激甚災害対応の為)	I 納期分散と履行期限の平準化(3月納期50%超)、年度繰越案件の更なる運用、「ウィークリースタンス」の推進と市町村への展開、深夜・休日勤務となる依頼の排除、「若手・女性技術者」評価型の活用促進、同技術者の表彰制度創設、シニア技術者の活用を要望 II 総合評価落札方式・プロポーザル方式の推進(指名価格競争入札はくじ引き4割強)、設計JVの対象業種拡大と発注量の増加、「設計変更ガイドライン」及び「設計変更事例集」の更新を要望 III 合同現地踏査の継続実施と必要に応じて地質技術者の参加、「三者協議会実施要領」策定運用への御礼と追加業務や修正設計が生じた際の別途契約の確実な実施を要望 IV 7月大雨激甚災害のお見舞い、業務一時中止命令や工期延期の実施と管理技術者交代要件の緩和、体制整備、災害申請作業の合理化・適切化、作業に見合った積算歩掛・費用の精算を要望 V 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進:業務効率化の促進、テレワーク・Web会議の推進、電子契約システムを活用した書類の電子化、手続きの簡素化、情報の共有化、移動・郵送等の時間短縮の促進を要望
<b>福島県</b> 開催日 R6年10月22日(火) 出席者 矢澤土木部長 他10名 菅原支部長 他27名	I 納期の平準化(3月納期59%)、建債・型債等の活用、履行期間の確保、「ウィークリースタンス」の市町村への周知徹底、深夜・休日勤務に繋がる過剰要求の排除、及びこれに対する割増等費用の計上、県庁(本庁)発注の電子入札システム導入、担い手確保・活用・育成に向けた契約・評価制度導入、若手・女性技術者の表彰制度創設、ワークライフバランスの更なる改善、若手・女性・シニアなどの活用・育成、新技術採用時の適切な費用計上を要望 II プロポーザル方式・総合評価落札方式の割合1.5%と非常に少なく採用拡大、優良土木・建築委託業務表彰のプロポーザル方式での加点評価、最低制限価格の制度導入(県庁発注、市町村)、地域コンサルタルの活用拡大・育成(JV制度等)を要望 III 合同現地踏査の実施拡大と必要に応じて地質技術者の参加、継続的な詳細設計調査要領の充実(照査項目や工種の追加)を要望 IV 災害対応時の既往業務一時中止・工期延期の実施、災害技術講習会への講師派遣、災害査定後の受発注者協働による検証、実作業に見合った積算歩掛、費用の適用を要望、大規模災害の新協定への感謝 V 入札調査の公表を検索可能なWEBシステムへの改善、テレワーク環境整備の加速化、各種技術基準類の電子化・WEB公開、BIM/CIM適用事業・対象業務の拡充、助成金の更なる拡大を要望
<b>東北地整</b> 開催日 R6年10月30日(水) 出席者 宮本企画部長 他10名 菅原支部長 他22名	I 繰越契約での技術者単価引上げに伴う変更契約、xROAD登録作業の費用計上、納期の年度末集中の改善、型債・国債の目標設定、標準履行期間を踏まえた適切な履行期間確保、2・3月に集中する業務の公示・提案時期の分散化、ワークライフバランス・ウィークリースタンスの更なる改善・推進、「若手・女性技術者配置促進方式の試行」の規模拡大、若手技術者表彰制度の創設、積算条件明示方法の統一化、交通誘導員単価引上げと保安施設費設置・撤去の費用計上を要望 II 業務難易度に応じたプロポーザル方式の採用・総合評価落札方式の1:2、1:3の採用、計画系プロポーザル業務の技術者単価アップに応じた参考業務規模の引上げ、国交省登録資格組合せ評価試行の適切な運用、一括審査方式の採用拡大、拡大型プロポーザル方式の技術提案書作成期間確保(延長)、新担い手3法の地方自治体への周知、「地域企業の活用促進方式(チャレンジ型)」「施行能力評価方式」の継続と規模拡大、ECI方式の発注、適切かつ確実な変更契約を要望 III 合同現地踏査の実施回数に応じた契約変更、条件明示チェックシートの運用促進、施工条件明示チェックシートの試行、三者会議で生じた修正設計等の適切な費用計上、実施方針の点数内訳公表、技術提案の履行不要の措置(特記仕様書の改善)を要望 IV 災害対応に伴う労基法第33条第1項の適切・確実な運用に向けた積極的な働きかけ、緊急災害対応業務の業務表彰と総合評価落札方式での加点評価、旅費・滞在費の実費精算、災害活動のPR(マスコミ報道)拡大を要望 V 電子契約システムによる完全ペーパーレス化、電子入札システムの拡大型プロポーザル・総合評価落札方式への対応、業務成績評定点・プロポーザル方式特定経緯のHP公開、積算内訳書のPPI公開、早期発注・型債業務における手持ち業務量の緩和措置、インフラの新たな活活用を要望
<b>青森県</b> 開催日 R6年11月6日(水) 出席者 古市県土整備部長 他13名 菅原支部長 他21名	I 繰越しの活用を含めた納期平準化と必要工期の確保、契約変更は事象が発生する都度迅速対応、設計内容等の特記仕様書への詳細・明確な表示、変更増額の上限撤廃改善、総合評価落札方式の公示から提案書提出までの期間を10~14日程度に延長、若手管理技術者配置に対する配点引上げ、電子入札システムでの添付ファイル容量3MBを10MBへ拡大、社会資本整備・維持管理予算の安定的・継続的な確保、最低制限価格・調査基準価格・失格判定基準の引上げ、設計変更新規工種への当初落札率の適用除外、を要望 II 斜め象限図を活用しプロポーザル方式の発注量拡大、計画・設計業務を主とする複合業務は総合評価落札方式での発注、比率は1:2、1:3の導入、技術力評価項目は3段階から5段階へ拡大、優良業務表彰件数の増加と評価点加点見直し、業務表彰対象者を管理技術者に限定せず担当技術者も対象に、調査基準価格を下回る価格への価格点加算の廃止、共同設計方式(JV)制度の導入を要望 III 合同現地踏査の実施拡大、設計条件明示チェックシートの活用拡大、詳細設計・工事に至る段階での追加業務・修正設計への適切な実施・費用計上、高度な業務へのプロポーザル方式の採用、国交省登録資格の技術者資格要件評価対象設定を要望 IV 大規模災害時の災害査定効率化(簡素化)と事前ルールの適切な運用・水平展開、旅費・滞在費・人件費の実経費に見合った適切な精算を要望 V 電子契約システム導入による業務効率化・経費削減、青森県土整備部DXロードマップに則った対象業務の拡大、BIM/CIM標準歩掛りの設計を要望
<b>宮城県</b> 開催日 R6年11月12日(火) 出席者 鈴木土木部副部長 他6名 菅原支部長 他26名	I 発注時期の分散、納期の分散と平準化(業務スケジュール管理表活用・型債活用)、設計変更時における当初落札率の適用外措置、ワークライフバランス改善に向けた施策の推進・強化、安定的・継続的な予算確保と技術者単価の引上げを要望 II 総合評価落札方式の発注が9割超と技術力重視による選定に感謝、引き続き標準型・簡易型(実施方針型)の適用拡大を要望、技術評価ウェイト重視、既往成果の閲覧資料の提供、実施方針評価点の低評価集中の是正、実施方針の詳細な内訳公表、管理補助技術者制度で若手・女性技術者に資格登録から2年以内の新資格者の配置を追加、担当技術者の実績を評価する「技術者チャレンジ型」の導入、業務内容に適した技術者資格の評価、表彰実績評価の改善、一括審査方式の導入、入札公告に「同種業務」の条件記載、審査状況の情報提供、添付資料容量の10MB規模の増加、失格判断基準額を調査基準価格と同等とする、低入札業務履行に関わる制約強化・これに伴う辞退方法の設置を要望 III 合同現地踏査の実施、業務情報の明確化(設計条件・成果内容・関係機関協議と情報共有)、必要に応じた三者会議の実施を要望 IV 災害対応時の業務中止命令・工期延長・管理技術者交代要件の緩和、遠隔地支援者への旅費・滞在費用精算、協議記録等のルール化を要望 V 電子契約システムの構築、情報共有システム(ASP)の積極活用による業務効率化の促進、テレワーク環境整備・遠隔協働の積極的導入、BIM/CIM活用モデル業務の適切で柔軟な運用・見積りシミュレーションによる適切な代価設計を要望
<b>仙台市</b> 開催日 R6年11月14日(木) 出席者 反畑都市整備局長 他9名 菅原支部長 他20名	I 発注課によらぬ最低制限価格制度の統一適用・入札契約関連書類の統一と簡素化・電子入札システムの導入による事務負担軽減、総合評価落札方式試行への感謝・ただし低入札調査基準価格は65%と著しく低く引上げを要望、斜め象限図適用促進と技術力による選定発注方式の増加、入札結果調査の電子化とHP上での公開、地域コンサルタルの活用・育成を図る大手コンサルとの設計JV導入を要望 II 3月納期集中の分散化、ウィークリースタンスの企業への展開・更なる改善、スケジュール管理表及びワンダーレスポンスの導入・実施 III 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組、受発注者合同の現地踏査による情報共有、条件明示チェックシートの活用による必要な検討事項・条件確定時期等の情報共有 IV 被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応、災害対応業務への体制整備として建設コンサルタンツ協会を積極的に活用する災害時の応援協定の締結を要望 V 受発注者協働による働き方改革に資するDX推進・業務効率化の促進、DX環境整備によるWEB会議による打合せ協議の推進、BIM/CIM活用業務の導入を要望
<b>岩手県</b> 開催日 R6年11月19日(火) 出席者 岩崎県土整備部技監 兼河川港湾担当技監 他9名 菅原支部長 他21名	I 3月納期30%と平準化進んでおり感謝・引き続き前倒し発注・柔軟な工期延長を要望、橋梁点検業務の積算と実勢価格の乖離(保安施設費計上・橋長14.5m以上の見積り徴収・橋梁間の移動時間と寸法計測現況図作成計上)、是正、入札結果の公表と積算内訳書(小項目)開示を要望 II 総合評価落札方式の発注比率が非常に高い水準にあり感謝、一方で技術提案有りの簡易I型の割合は4%程度で推移・プロポーザル方式はR5年度は0件に鑑みプロポーザル方式の採用拡大と簡易I型対象業務の適切な設定を要望、実績要件で「岩手県内限定実績」の緩和、新規参入企業や受注実績の少ない企業の受注機会拡大を促すチャレンジ案件制度構築、一般競争入札案件の一括審査方式の採用、地域コンサルタルの技術力向上を図る設計共同体(JV)の採用拡大を要望 III 工事調整会議(三者会議)の継続実施と活用、実施要領や運用ガイドラインの公表を要望、詳細設計から工事に至る段階(三者会議を含む)でコンサルタンタが対応する追加業務や修正設計の定義が不明瞭で適切な工期や報酬とならない可能性があり適切な工期設定と費用計上を要望 IV H29年3月締結の災害協定書における県側の費用負担は旅費と報奨金とされていることと実施期間が輪流要請から48時間を目安とする2点を実態に合わせて見直す実務者による協議の継続、大規模災害時の災害査定効率化及び事前ルールの適正な運用などの先進事例水平展開を要望 V 電子契約システムの構築を要望、情報共有システム(ASP)は10月より利用可となり感謝、働き方改革の一環となるWEB会議の積極的な運用支援、DX推進の環境整備のための助成金の創設を要望

写真1 東北ブロック意見交換会 R6.7.25

会場：TKPガーデンシティ仙台



写真5 青森県県土整備部との意見交換会 R6.11.6

会場：ウエディングプラザアラスカ



写真2 秋田県建設部との意見交換会 R6.10.10

会場：メトロポリタン秋田



写真6 宮城県土木部との意見交換会 R6.11.12

会場：ハーネル仙台



写真3 福島県土木部との意見交換会 R6.10.22

会場：ホテル福島グリーンパレス



写真7 仙台市都市整備局との意見交換会 R6.11.14

会場：TKPガーデンシティPREMIUM 仙台西口



写真4 東北地方整備局との意見交換会 R6.10.30

会場：ホテル白萩



写真8 岩手県県土整備部との意見交換会 R6.11.19

会場：プラザおでって



## 若手の会で得た学びと今後の目標

若手の会委員

株式会社東コンサルタント 柴田 愛美

### 1. はじめに

2022年から建コン東北支部若手の会に加入し、今年で3年目になります。若手の会は、主にWGを通じて活動をしており、私はプロモーションWGに属しております。プロモーションWGでは、若手の会の活動をSNSで発信し、建コン業界の認知度向上やイメージアップを目指して活動しています。

### 2. WG活動の振り返りと今後の目標

#### (1) EE東北2024

今年度最初の対外活動としてEE東北への参加がありました。建設コンサルタンツ協会東北支部でブースを展示し、当日はパンフレットの配布を通じて、多くの学生に建コン業界への関心を持ってもらえるよう働きかけました。参加して感じたことは、やはり学生の建コン業界への認知度は低く、「建設コンサルタント」という言葉は聞いたことがあるものの、どのような仕事をしているのかは分からないという声が多くありました。一方で、学生の子供を持つご両親からパンフレットを求められる場面もあり大変嬉しく思いました。

EE東北には、次年度も参加したいと考えており、特に今年度実施できなかったノベルティグッズ等の作成も行いながら、より学生に興味を持ってもらえるよう、WGメンバーと意見を出し合って企画・検討していきたいと考えています。



▲EE東北2024の活動風景

#### (2) SNS投稿

SNS活動ではX、Instagram、Facebook等を用いて活動報告や若手の会メンバーの紹介を行っています。

活動当初は、私自身がSNSに疎いこともあって活

動中の風景写真やメンバーの紹介文を投稿するだけで精一杯でした。しかし、今年度は他支部のInstagram投稿を参考にさせていただきながら、投稿内容に応じたテンプレートを作成することで、SNSならではの見せ方の工夫に力を入れることができました。

SNS投稿は地道で小さな活動ではありますが、私にとって経験のないSNS運用やデザインツールにチャレンジするきっかけとなった活動なので、やりがいを感じています。次年度からは、活動報告やメンバー紹介だけでなく、土木の魅力を伝える投稿や建設コンサルタントをもっと身近に感じてもらえるような投稿を考案し、認知度向上につながる活動を継続していきたいと思います。



▲SNSでの活動報告

### 3. おわりに

最後に、私たちの活動を支えてくださっている建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様へ、心より感謝申し上げます。また、私がいつも楽しく活動できるのは若手の会メンバーあってのもので、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

## [支部だより]

10月 2日 (水)

第1回技術部会専門委員長会議

場 所/事務局会議室

- 議 題/ (1) 専門委員会主催行事の中間報告  
 (2) 令和6年7月秋田・山形豪雨災害の対応報告  
 (3) 今後の活動予定・その他

10月 4日 (金)

宮城県土木部「河川設計研修」へ講師派遣

講 師/ 巽 龍太郎 (株建設技術研究所)  
 柴崎 進 (株復建技術C)

10月 8日 (火)

福島県土木部「デジタル技術活用人材育成講習会」

へ講師派遣

講 師/ 市川 健 (株復建技術C)

10月10日 (木)

秋田県との意見交換会

場 所/ ホテルメトロポリタン秋田

秋田県 川辺 建設部長 他 8名

協 会 菅原支部長 他 21名

議 題/ 建コンからの提案議題

- (1) 担い手確保・育成のための環境整備
- (2) 技術力による選定
- (3) 品質の確保・向上
- (4) 災害対応に向けた環境改善
- (5) DX推進の環境整備

10月16日 (水)

宮城県建設センター「道路計画調査研修 (LIVE)」

へ講師派遣

講 師/ 平柳 圭 (株福山C)

阿部 広昭 (株東京建設C)

10月18日 (金)

令和6年度河川・環境合同現場見学会

見学場所/ 成瀬ダム

主 催 技術部会河川・環境専門委員会

参加者 40名

10月22日 (火)

福島県との意見交換会

場 所/ ホテル福島グリーンパレス

福島県 矢澤 土木部長 他 11名

協 会 菅原支部長 他 28名

10月23日 (水)

仙台市「本市道路技術研修」へ講師派遣

講 師/ 小山 滋人 (株三協技術)

10月29日 (火) ~ 31日 (木)

JCCA TOHOKU69号、他発送

10月30日 (水)

東北地方整備局との意見交換会

場 所/ ホテル白萩

整備局 宮本 企画部長 他 10名

協 会 菅原 支部長 他 21名

11月 1日 (金)

若手の会定例会 (集合およびWeb)

11月 5日 (火)

令和6年度河川講習会

場 所/ ハーネル仙台

主 催 技術部会河川専門委員会

共 催 東北地方整備局

受講者 93名

11月 6日 (水)

技術部会3専門委員会による「合同現場見学会」

見学場所/ (仮称) 栗原IC、R108古川東バイパス

主 催 技術部会道路・地盤・インフラメンテナンス

専門委員会

参加者 29名

11月 6日 (水)

青森県との意見交換会

場 所/ ウェディングプラザアラスカ

青森県 古市 県土整備部長 他 13名

協 会 菅原支部長 他 21名

## 支部だより

11月12日(火)

宮城県との意見交換会

場所/ハーネル仙台

宮城県 鈴木 土木部副部長 他 6名

協会 菅原支部長 他 26名

11月14日(木)

仙台市との意見交換会

場所/TKPガーデンシティPREMIUM

仙台市 反畑 都市整備局長 他 9名

協会 菅原 支部長 他 20名

11月14日(木)～15日(金)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」

へ講師派遣

講師/向江 正夫(株)東京建設C)

石井 一人(パシフィックC株)

11月18日(月)～12月10日(火)

技術士模擬面接(Webおよび対面)

受講者 41名

11月19日(火)

岩手県との意見交換会

場所/プラザおでって

岩手県 岩崎 県土整備部 技監 他 9名

協会 菅原支部長 他 20名

11月20日(水)

第2回技術部会専門委員長会議

場所/事務局会議室

議題/① 令和7年度 事業計画

② 予備設計段階からの事業費精度向上に向けた検討

③ 技術士試験模擬面接について他

11月21日(木)

宮城県建設センター「橋梁維持・補修研修〈LIVE

併用型〉」へ講師派遣

講師/石井 一人(パシフィックC株)

11月25日(月)

令和6年度講演会「スポーツを核としたまちづくり」

場所/トークネットホール仙台(仙台市民会館)

小ホール

講演/「プロサッカーリーグのまちづくり」

ベガルタ仙台クラブコーディネーター

梁 勇基 氏

ベガルタ仙台クラブコミュニケーター

富田 晋伍 氏

「アリーナを核としたまちづくり」

八戸市 都市整備部 次長 石橋 敏行 氏

「プロ野球人としてのまちづくり」

元東北楽天ゴールデンイーグルス

銀 次 氏

主催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部広報委員会

後援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、日刊建設工業新聞社、日刊建設通信新聞社、建設新聞社、日本建設新聞社

協賛 公益社団法人土木学会東北支部、公益社団法人日本技術士会東北支部

参加者 330名

11月27日(水)

全国事務局長会議

場所/本部会議室

議題/① 令和6年度「本部・支部意見交換会」について

② その他説明事項

③ 本部・支部事務局長の意見交換

11月29日(金)

東北地方整備局若手職員と若手の会 交流会

場所/ハーネル仙台

参加者 20名(建コン12名 整備局 8名)

11月29日(金)

宮城県建設センター「道路舗装実務研修〈LIVE併用

型〉」へ講師派遣

講師/栗田 俊一(株)復建技術C)

12月 3日 (火)

企画委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 来年度の事業計画および予算(案)について  
(2) そ の 他

12月 4日 (水)

若手の会Web交流会 (ライブ配信)

参加者 23名

12月 4日 (水)～5日 (木)

福島県「令和6年度農林土木技術研修 (中堅職員  
研修2)」へ講師派遣

講 師／石井 一人 (パシフィックC株)

12月13日 (金)

第4回情報部会 (対面およびWeb会議)

議 題／(1) 各WGより活動報告  
(2) 講習会アンケート結果報告  
(3) そ の 他

12月18日 (水)

全国担当者会議

場 所／本部会議室

議 題／(1) 令和6年度「本部・支部意見交換会」に  
ついて  
(2) 税務署法廷監査の私的事項等について  
(3) 委員会委員等への旅費交通費等の支給に  
ついて他

12月18日 (水)

第2回地域コンサルタント委員会 (Web会議)

議 題／(1) 本部地域コンサルタント委員会の報告  
(2) 東北地整、東北6県の入札契約制度の状況  
(3) 担い手確保・育成活動  
(4) そ の 他

12月19日 (木)

第13回役員会

場 所／パレスへいあん

議 題／(1) 令和7年度支部事業計画 (案) について  
(2) 令和7年度支部予算 (案) について  
(3) そ の 他

12月19日 (木)

本部 多田副会長講演会「まずは疑い、そして考える」

場 所／パレスへいあん

主 催 総務部会 参加者 約130名

12月19日 (木)

支部忘年会

場 所／パレスへいあん

主 催 総務部会 参加者 約130名

1月17日 (金)

若手の会 若手技術者交流サロン

主 催 若手の会

参加者 29名

1月21日 (火)

第14回役員会

場 所／管工事会館

議 題／(1) 本部と支部の意見交換会について  
(2) 各部会・委員会からの報告  
(3) そ の 他

1月24日 (金)

令和6年度技術職員研修会

場 所／TKP仙台青葉通カンファレンスセンター

主 催 技術部会インフラメンテナンス専門委員会  
受講者 24名

2月 1日 (土)

令和6年度建コン「交流会」(ボウリング大会)

場 所／コロナキャットボウル仙台

主 催 総務部会

参加者 28名

2月 4日 (火)

第4回対外活動委員会

場 所／事務局会議室

議 題／(1) 岩手県災害協定改訂について  
(2) 令和6年度「要望と提案」について  
(3) そ の 他

2月13日 (木)

第23回 高校生「橋梁模型」作品発表会

主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会  
(当支部他5団体共催)

## 支部だより

2月18日(火)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／仙台ガーデンパレス

本 部 中村会長 他 13名

支 部 菅原支部長 他 27名

議 題／(1) 令和7年度「要望と提案」概要の説明について

(2) 令和7年度「白書」の基本方針と骨子について

(3) 支部からの提案

(4) そ の 他

2月19日(水)

第3回技術部会専門委員長会議

場 所／事務局会議室

議 題／(1) 令和6年度事業報告・令和7年度事業計画

(2) 災害協定に基づく業務候補者推薦に関する規則(案)

(3) そ の 他

2月19日(水)

令和6年度環境専門委員会セミナー

場 所／トラストシティカンファレンス・仙台

主 催 技術部会 環境専門委員会

受講者 35名

2月20日(木)

第6回情報部会(メール確認)

議 題／(1) 令和7年度事業計画(案)及び予算(案)について

(2) そ の 他

3月3日(月)

広報委員会

場 所／事務局会議室

議 題／(1) 令和6年度事業報告・令和7年度事業計画について

(2) JCCATOHOKUの編集について

(3) そ の 他

3月25日(火)

企画委員会

場 所／支部会議室

議 題／(1) 令和7年度支部総会について

(2) そ の 他

## [会員の動向]

### ◆ 新入会員の紹介

令和7年 4月入会 (株)都市開発設計  
代表取締役 野口 隆夫  
〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田 77-3  
TEL 024-983-7181 FAX 024-983-7183

令和7年 4月入会 (株)マドック  
代表取締役 平澤 紀元  
〒989-6104 大崎市古川江合錦町 2-1-3  
TEL 0229-23-6029 FAX 0229-22-3468

### ◆ 会員の異動（次の方が就任されました）

令和6年 7月 1日 大日本ダイヤコンサルタント(株) 東北支社  
支社長 岡田 篤

令和6年 7月 吉日 日本振興(株) 東北支店  
支店長 泉谷 誠

令和6年 9月 12日 (株)新和調査設計  
代表取締役社長 安藤 正人

令和6年 9月 24日 八千代エンジニアリング(株) 北日本支店  
支店長 小原 淳一

令和6年 10月 1日 (株)オリエンタルコンサルタンツ 東北支社  
支社長 森本 尚弘

令和6年 10月 1日 パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社  
支社長 伊藤 弘明

令和6年 12月 19日 セントラルコンサルタント(株) 東北支社  
支社長 竹内 徹

令和7年 3月 25日 (株)建設技術研究所 東北支社  
支社長 永矢 貴之

### ◆ 住所変更

令和6年 7月 1日 (株)建設環境研究所 東北支社  
〒980-0803 仙台市青葉区国分町 3-1-11 (定禅寺通スクエアビル 8階)  
TEL 022-706-4973 (変更)  
FAX 022-706-4974 (変更)

令和6年 7月 16日 三井共同建設コンサルタント(株) 東北支社  
〒984-0051 仙台市若林区新寺 1-2-26 (小田急仙台東口ビル 9階)  
TEL 022-296-1061 (変更)  
FAX 022-296-1065 (変更)

令和6年 9月 吉日 (株)福田水文センター 東北支店  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-6-17 (勾当台本町ビル 6階)  
TEL 022-281-8525 (変更なし)  
FAX 022-281-8868 (変更なし)

一般社団法人 建設コンサルタント協会 東北支部 会員名簿

会員 4月現在 108社

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アースデザインコンサルタンツ	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
(株)アールバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北営業部	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)東コンサルタント	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アルファ水工コンサルタンツ	仙台事務所	〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27	022-207-5300
いであ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉3-4-43	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北事務所	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイコウコンサルタンツ(株)	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字下亀子谷地11-2	0178-21-1511
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
(株)エース	仙台営業所	〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208	022-797-9718
応用地質(株)	東北事務所	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-2-13	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタント(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平新日本技研	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタック	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタント	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
協和設計(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-3711
(株)近代設計	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12	022-207-2480
(株)ケー・シー・エス	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-224-1591
(株)建設環境研究所	東北支社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-706-4973
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6861
(株)コウキコンサルタント	本社	〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
国土防災技術(株)	東北支社	〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1	022-216-2586
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻字今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)櫻エンジニアリング	本社	〒963-8034 福島県郡山市島1-22-30	024-953-6830
(株)サト一建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタント(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタント(株)	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-273-4448
(株)三洋コンサルタント	岩手営業所	〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ5-16-34	019-645-6281
(株)三和技術コンサルタント	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1	022-742-5301
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
(株)新星コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-11	050-5814-4959
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311

会社名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
J R 東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株) 創研コンサルタンツ	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121
(株) 総合技術コンサルタンツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15	022-268-4191
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株) 田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株) ダイエツ	本社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大日本ダイヤコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株) 地圏総合コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6	022-766-9121
(株) 中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタンツ(株)	東北事務所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15	022-397-8173
(株) 長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株) 千代田コンサルタンツ	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2	022-214-6261
(株) テイコク	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-202	022-343-0956
(株) 東京建設コンサルタンツ	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株) 東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株) 東光コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8	022-264-1578
(株) トーニチコンサルタンツ	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株) ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株) 東北開発コンサルタンツ	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株) 東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
(株) 都市開発設計	本社	〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田77-3	024-983-7181
(株) 土木技研	本社	〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20	019-638-8131
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株) 日水コン	東北支所	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-222-1101
(株) 日本インシーク	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-724-7530
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-8-20	022-227-3525
日本工営都市空間(株)	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-716-6646
(株) 日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-713-6657
日本振興(株)	東北支店	〒980-8485 仙台市青葉区中央1-2-3	022-797-0391
(株) ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株) パスコ	東北事業部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株) 東日本建設コンサルタンツ	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株) 福田水文センター	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-17	022-281-8525
(株) 福山コンサルタンツ	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株) ふたば	本社	〒979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55	0240-22-0261
(株) 双葉建設コンサルタンツ	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399-11	0233-22-0891
(株) 復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11	022-267-2765
(株) 復建技術コンサルタンツ	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1	022-723-5830
(株) マドック	本社	〒989-6104 大崎市古川江合錦町2-1-3	0229-23-6029
三井共同建設コンサルタンツ(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-296-1061
陸奥テックコンサルタンツ(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	北日本支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株) 吉田測量設計	本社	〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13	019-635-1740



## 編集後記

先般、健康診断の結果を受け、かかりつけ医から休肝日の設定を指導され、週の約半分を休肝日にすることにしました。これを実際にやってみると、「今日は仕事の懇親会だからやむなし」等々、あれこれ理由をつけては例外扱いにする日の何と多いことか。体のために対策はわかっているのに、なかなか実行できない日々が続いております。

なかなか実行できないという点では、先日こんなこともありました。ネット経由での買い物では、再配達を減らすために極力土曜日の午前中を指定しているのですが、それぞれ違うサイトで買い物したため、同じ日にヤマト運輸、佐川急便、郵便局で別々に配達されました。もし一回で受け取れたら地球環境にも優しいだろうな、何か良い方法はないのかな、などと考えてしまいました。このような疑問を感じながらも、実際の買い物をなかなか減らせないでいるのは、私だけではないと思います。

今号で特集した異常気象についても、地球環境に負荷をかけていることを意識していながら、なかなか行動に移せないでいる方は多いのではないのでしょうか。この問題の解決のために、究極的には「豊かさや便利さなどの欲望を適正な水準まで減らすこと」が必要だと思いますが、これがなかなか難しい。欲望を追求することが人類の発展の原動力でもありますし、また適正な水準というのも時代や地域によって違って来るわけですから。とは言え、まずは一人ひとりが地道に負荷軽減策を実行していくことが求められているでしょう。

今号から東北のインフラツーリズムの特集を始めました。初回はダム篇としましたが、次号以降いろいろなインフラを対象にしますので、どうぞご期待ください。

最後になりますが、今号にご寄稿いただきました皆様に対し心から感謝申し上げます。お忙しいところご協力を頂きまして誠にありがとうございました。

(令和7年3月 海老名 俊之 記)

---

### JCCA TOHOKU Vol.70

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部  
〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11  
アーク仙台ビル  
TEL 022-263-6820

編集 広報委員長 菊池透  
副委員長 上野圭祐 副委員長 菊田博己  
広報委員 大友正樹 広報委員 相澤達也  
〃 大場秀行 〃 樋口章大  
〃 長谷川悟 〃 遠藤敦  
〃 安井栄晃 〃 海藤剛  
〃 海老名俊之 〃 遠藤康郎  
〃 佐藤正隆 〃 畑山満

事務局 淀川政晴・小川みゆき  
印刷 ハリウコミュニケーションズ株式会社  
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12  
TEL 022-288-5011





.....明日への風、東北から.....

【建コン東北支部 サイトアドレス】

<https://jcca-tohoku.jp>

建コン 東北

検索



#### ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。